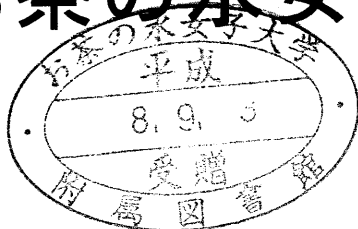


お茶の水女子大学学报



平成 8 年 7 月 1 日
お茶の水女子大学庶務課

目次

◇学内規則	2	◇学 事	18
◎お茶の水女子大学学則の一部を改正する学則	2	◎平成9年度お茶の水女子大学大学院人文科学研究科(修士課程)日本語文化専攻社会人学生募集要項	18
◎お茶の水女子大学評議会規則の一部を改正する規則	2	◎平成9年度お茶の水女子大学大学院理学研究科(修士課程)学生募集要項	26
◎お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則	3	・理学研究科(修士課程)情報科学専攻社会人特別選抜学生募集要項	28
◎お茶の水女子大学ジェンダー研究センター運営委員会規程	5	◎平成9年度お茶の水女子大学大学院家政学研究科(修士課程)学生募集要項	34
◎お茶の水女子大学ジェンダー研究センター長候補者選考規程	7	◎平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科(博士課程)学生募集要項	42
◎お茶の水女子大学ジェンダー研究センター設置に伴う関係規程等の整理に関する規程	8	・平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科(博士課程)外国人留学生募集要項	51
◎お茶の水女子大学教官選考規程の一部を改正する規程	10	◎平成9年度お茶の水女子大学理学部第3年次編入学学生募集要項	60
◎お茶の水女子大学共用体育施設等管理運営規則の一部を改正する規則	10	◎平成9年度お茶の水女子大学生活科学部第3年次編入学学生募集要項	66
◎お茶の水女子大学学芸員課程委員会規程の一部を改正する規程	11	◇人 事	68
◎お茶の水女子大学附属学校教育研究委員会規程の一部を改正する規程	12	◇諸 報	72
◎お茶の水女子大学ジェンダー研究センター設置に伴う関係規程等の整理に関する規程	13	◎研 修	72
◎お茶の水女子大学事務組織規程の一部を改正する規程	14	◎海外渡航	72
◎お茶の水女子大学資料委員会規程	15	◎永年勤続者表彰について	74
◎お茶の水女子大学資料委員会規程	15	◎名誉教授の称号授与について	74
◇新任部局長紹介	17	◇日 誌	80

学 内 規 則

○平成8年お茶の水女子大学規則第17号

お茶の水女子大学学則の一部を改正する学則を次のとおり定める。

平成8年4月24日

お茶の水女子大学長 太 田 次 郎

お茶の水女子大学学則の一部を改正する学則

お茶の水女子大学学則（昭和24年5月31日制定）の一部を次のように改正する。

第3条の2を次のように改める。

第3条の2 本学にジェンダー研究センターを置く。

2 ジェンダー研究センターに関する規程は、別にこれを定める。

附 則

この学則は、平成8年5月11日から施行する。

○平成8年お茶の水女子大学規則第18号

お茶の水女子大学評議会規則の一部を改正する規則を次のとおり定める。

平成8年4月24日

お茶の水女子大学長 太 田 次 郎

お茶の水女子大学評議会規則の一部を改正する規則

お茶の水女子大学評議会規則（昭和27年9月18日制定）の一部を次のように改正する。

第3条中「カリキュラム委員会委員長」の次に「、ジェンダー研究センター長」を加える。

附 則

この規則は、平成8年5月11日から施行する。

○平成8年お茶の水女子大学規則第19号

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則を次のとおり定める。

平成8年4月24日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則

(趣旨)

第1条 この規則は、お茶の水女子大学学則第3条の2の規定に基づき、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、学内共同教育研究施設として、ジェンダーに関する総合的、国際的な研究及び調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資することを目的とする。

(研究・業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、大学内外の研究者の協力を得て次に掲げる研究及び業務を行う。

- 一 ジェンダーに関する学際的研究及び調査
- 二 ジェンダー研究に関する教育研修
- 三 ジェンダー研究に関する文献・資料の収集及び整理
- 四 ジェンダー研究に関する情報の提供
- 五 その他前条の目的を達成するために必要な研究及び業務

(組織)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 教授
- 三 研究員

2 前項に掲げるもののほか、助教授、講師及びその他必要な職員を置くことができる。

(センター長)

第5条 センター長は、本学の教授をもって充てる。

- 2 センター長は、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長候補者の選考に関する規程は、別に定める。

(研究員)

第6条 研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に参画する。

- 2 研究員は、第8条に規定する運営委員会の議に基づき、学長が委嘱する。
- 3 研究員の任期は、1年以内とし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第7条 センターに研究協力員を置くことができる。

- 2 研究協力員は、第3条に掲げる研究及び業務に協力する。
- 3 研究協力員は、第8条に規定する運営委員会の議に基づき、センター長が委嘱する。
- 4 研究協力員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第8条 センターの管理運営に関する重要事項を審議するため、ジェンダー研究センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

(研究委員会)

第9条 センターの研究に関する具体的事項を審議するため、ジェンダー研究センター研究委員会(以下「研究委員会」という。)を置く。

2 研究委員会に関する事項は、別に定める。

(研究生等)

第10条 センターは、研究に支障がない限り、研究生(1種、2種に区分する。)、委託生及び研修員(以下「研究生等」という。)を受け入れることができる。

2 前項の研究生等の入学資格、入学手続、その他必要な事項については、左欄に掲げるものは、右欄に掲げるものの例による。

左 欄	右 欄
研究生(1種)	研 究 生
研究生(2種)	大学院研究生
委 託 生	学 部 委 託 生
研 修 員	私学研修員, 専修学校研修員, 公立大学研修員

(事務)

第11条 センターの事務は、当分の間、庶務課において処理する。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が定める。

附 則

この規則は、平成8年5月11日から施行する。

○平成8年お茶の水女子大学規則第20号

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター運営委員会規程を次のとおり定める。

平成8年4月24日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター運営委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則第8条第2項の規定に基づき、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、ジェンダー研究センター（以下「センター」という。）に関し、次に掲げる事項を審議する。

- 一 管理運営の基本方針に関する事項
- 二 研究計画の基本方針に関する事項
- 三 センター長の選考その他教官人事に関する事項
- 四 予算に関する事項
- 五 その他センターに関する重要事項

(組織)

第3条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 センター長
 - 二 各学部長
 - 三 人間文化研究科長
 - 四 附属図書館長
 - 五 センターの専任教官
 - 六 各学部から選出された教授各1名
 - 七 事務局長
- 2 前項第6号の委員は、学長が任命する。

(任期)

第4条 前条第1項第6号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員が欠員となった場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 運営委員会の成立には、委員の3分の2以上の出席を必要とする。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 第3条第1項第7号の委員は、第2条第3号に掲げる事項の審議に加わらないものとする。

(委員以外の者の出席)

第7条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第8条 運営委員会の事務は、当分の間、庶務課において行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営等に関し必要な事項は、センター長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成8年5月11日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命される委員のうち、第3条第1項第6号の委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず平成10年3月31日までとする。

○平成8年お茶の水女子大学規則第21号

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター長候補者選考規程を次のとおり定める。
平成8年4月24日

お茶の水女子大学長 太 田 次 郎

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター長候補者選考規程

(趣旨)

第1条 お茶の水女子大学ジェンダー研究センター長候補者(以下「センター長候補者」という。)の選考については、この規程の定めるところによる。

(選考の時期)

第2条 センター長候補者の選考は、次の各号の一に該当する場合に行う。

- 一 センター長の任期が満了するとき。
- 二 センター長が辞任を申し出たとき。
- 三 センター長が欠員となったとき。

2 センター長候補者の選考は、前項第1号の場合は、その30日前までに、同項第2号又は第3号の場合は、速やかに行う。

(候補者の資格)

第3条 センター長候補者は、本学専任の教授のうちから選考する。

(選考)

第4条 センター長候補者は、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター運営委員会の推薦により、評議会の議を経て、学長が行う。

(任期)

第5条 センター長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(雑則)

第6条 この規程の実施に関し必要な事項は、評議会の議を経て、学長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成8年5月11日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現にジェンダー研究センター設置準備委員会によりセンター長候補者として選出された者は、この規程により選考されたものとみなす。

○平成 8 年お茶の水女子大学規則第22号

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター設置に伴う関係規程等の整理に関する規程を次のように定める。

平成 8 年 4 月 24 日

お茶の水女子大学長 太 田 次 郎

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター設置に伴う関係規程等の整理に関する規程

(自己点検・評価検討委員会設置要綱の一部改正)

第 1 条 お茶の水女子大学自己点検・評価検討委員会設置要綱(平成 4 年 4 月 22 日制定)の一部を次のように改正する。

第 3 項(3)第 5 号を次のように改める。

五 ジェンダー研究センター長

(予算委員会規程の一部改正)

第 2 条 お茶の水女子大学予算委員会規程(昭和34年12月23日制定)の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 項第 6 号を次のように改める。

六 ジェンダー研究センター長

(施設計画委員会規程の一部改正)

第 3 条 お茶の水女子大学施設計画委員会規程(昭和41年 2 月 9 日制定)の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 項第 8 号を次のように改める。

八 ジェンダー研究センター長

(共同研究委員会規程の一部改正)

第 4 条 お茶の水女子大学共同研究委員会規程(平成 7 年 5 月 27 日制定)の一部を次のように改正する。

第 3 条第 4 号を次のように改める。

四 ジェンダー研究センター長

(将来構想検討委員会規程の一部改正)

第 5 条 お茶の水女子大学将来構想検討委員会規程(昭和63年 4 月 27 日制定)の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 項第 3 号を次のように改める。

三 ジェンダー研究センター及び生活環境研究センターから選出された教官
各 1 名

(附属図書館運営委員会規程の一部改正)

第 6 条 お茶の水女子大学附属図書館運営委員会規程(昭和29年 2 月 3 日制定)の一部を次のように改正する。

第 2 条第 1 項第 4 号を次のように改める。

四 ジェンダー研究センターから選出された教官 1 人

(情報処理センター運営委員会規程の一部改正)

第 7 条 お茶の水女子大学情報処理センター運営委員会規程(昭和63年 7 月 13 日制定)の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 項第 5 号を次のように改める。

五 ジェンダー研究センター及び生活環境研究センターから選出された教官各 1 人

(客員教授及び客員助教授の選考に関する規程の一部改正)

第8条 お茶の水女子大学客員教授及び客員助教授の選考に関する規程(平成元年4月26日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第1項中「研究科委員会」の次に「、ジェンダー研究センターにあつては運営委員会」を加える。

(奨学寄附金受入規程の一部改正)

第9条 お茶の水女子大学奨学寄附金受入規程(平成2年10月24日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「、附属図書館」の次に「、ジェンダー研究センター」を加える。

(委任経理金取扱規程の一部改正)

第10条 お茶の水女子大学委任経理金取扱規程(平成2年10月24日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「、附属図書館」の次に「、ジェンダー研究センター」を加える。

附 則

- 1 この規程は、平成8年5月11日から施行する。
- 2 平成8年3月31日において、女性文化研究センターから選出されている第5条から第7条の委員は、改正後の規程によりジェンダー研究センターから選出されたものとみなし、任期は施行日におけるそれぞれの委員の残任期間とする。

○平成8年お茶の水女子大学規則第23号

お茶の水女子大学教官選考規程の一部を改正する規程を次のとおり定める。

平成8年4月24日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学教官選考規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学教官選考規程（平成6年9月29日全改）の一部を次のように改正する。

第3条第2項中「二学科からなる学部」を「文教育学部及び生活科学部」に改める。

附 則

この規程は、平成8年5月11日から施行する。

○平成8年お茶の水女子大学規則第24号

お茶の水女子大学共用体育施設等管理運営規則の一部を改正する規則を次のとおり定める。

平成8年4月24日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学共用体育施設等管理運営規則の一部を改正する規則

お茶の水女子大学共用体育施設等管理運営規則（昭和59年5月23日制定）の一部を次のように改正する。

第7条第3号中「舞踊教育学科」を「芸術・表現行動学科」に改める。

附 則

- 1 この規則は、平成8年5月11日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において、改正前の規則により文教育学部舞踊教育学科から選出された教官は、改正後の規則により文教育学部芸術・表現行動学科から選出された教官とみなす。
- 3 前項の規定により、文教育学部芸術・表現行動学科から選出されたものとみなされる委員の任期は、第8条の規定にかかわらず、この規則の施行の日におけるその者の残任期間とする。

○平成8年お茶の水女子大学規則第25号

お茶の水女子大学学芸員課程委員会規程の一部を改正する規程を次のとおり定める。

平成8年4月24日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学学芸員課程委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学学芸員課程委員会規程（昭和51年9月28日制定）の一部を次のように改正する。

第3条を次のように改める。

第3条 委員会は次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 文教育学部人間社会学科主任教官
 - 二 文教育学部人間社会学科教育科学講座担当教官2人
 - 三 文教育学部人文科学科形象分析学講座、比較歴史学講座、地理学講座及び言語文化学科日本語・日本文学講座から選出された教官各1人
 - 四 理学部及び生活科学部から選出された教官各1人
- 第7条中「教務委員会」を「カリキュラム委員会」改める。

附 則

- 1 この規程は、平成8年5月11日から施行する。
- 2 この規程の施行日の前日において、改正前の規程により文教育学部教育学科社会教育学講座担当教官並びに改正前の規程により文教育学部哲学科、史学科、地理学科及び国文学科から選出された教官は、改正後の規程による文教育学部人間社会学科教育科学講座担当教官並びに改正後の規程により文教育学部人文科学科形象分析学講座、比較歴史学講座、地理学講座及び言語文化学科日本語・日本文学講座から選出された教官とみなす。
- 3 前項の規定により、文教育学部人文科学科形象分析学講座、比較歴史学講座、地理学講座及び言語文化学科日本語・日本文学講座から選出されたものとみなされる委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間とする。

○平成8年お茶の水女子大学規則第26号

お茶の水女子大学附属学校教育研究委員会規程の一部を改正する規程を次のとおり定める。

平成8年4月24日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学附属学校教育研究委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学附属学校教育研究委員会規程（昭和55年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第3号中「文教育学部教育学科」を「文教育学部人間社会科学科」に改める。

附 則

- 1 この規程は、平成8年5月11日から施行する。
- 2 この規程の施行日の前日において、改正前の規程により文教育学部教育学科から選出された教官は、改正後の規程により文教育学部人間社会科学科から選出された教官とみなす。
- 3 前項の規定により、文教育学部人間社会科学科から選出されたものとみなされる委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間とする。

○平成8年お茶の水女子大学規則第27号

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター設置に伴う関係規程等の整理に関する規程を次のように定める。

平成 8年 4月 24日

お茶の水女子大学長 太 田 次 郎

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター設置に伴う関係規程等の整理に関する規程

(国有財産取扱規程の一部改正)

第1条 お茶の水女子大学国有財産取扱規程(昭和46年4月1日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「女性文化研究センター」を「ジェンダー研究センター」に改める。

別表第1及び別表第2中「女性文化研究センター」を「ジェンダー研究センター」に改める。

(防災規則の一部改正)

第2条 お茶の水女子大学防災規則(昭和61年3月18日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1号中「女性文化研究センター」を「ジェンダー研究センター」に改める。

(購入物品の機種選定に関する取扱要項の一部改正)

第3条 お茶の水女子大学購入物品の機種選定に関する取扱要項(昭和59年11月26日制定)の一部を次のように改正する。

第2項(1)中「女性文化研究センター」を「ジェンダー研究センター」に改める。

(大型設備の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項の一部改正)

第4条 お茶の水女子大学大型設備の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項(平成3年7月1日制定)の一部を次のように改正する。

第2項1中「女性文化研究センター」を「ジェンダー研究センター」に改める。

(会計監査要項の一部改正)

第5条 お茶の水女子大学会計監査要項(昭和61年2月25日制定)の一部を次のように改正する。

第2項(1)中「(女性文化研究センターを含む。)」を「、ジェンダー研究センター」に改める。

第6条 お茶の水女子大学事務組織規程(平成2年3月28日制定)の一部を次のように改正する。

第12条第2号中「女性文化研究センター」を「ジェンダー研究センター」に改め、同条第6号を第7号とし、第4号及び第5号を1号ずつ繰下げ、第3号の次に次の1号を加える。

(4) 共通機器センター 庶務課

(補償事務主任者の官職指定に関する要項の一部改正)

第7条 お茶の水女子大学補償事務主任者の官職指定に関する要項(昭和61年4月11日制定)の一部を次のように改正する。

別表中「女性文化研究センター」を「ジェンダー研究センター」改める。

(民間機関等との共同研究取扱規程の一部改正)

第8条 お茶の水女子大学における民間機関等との共同研究取扱規程(平成7年5月24日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1号中「女性文化研究センター」を「ジェンダー研究センター」に改める。

附 則

この規程は、平成8年5月11日から施行する。

○平成8年度お茶の水女子大学規則第28号

お茶の水女子大学事務組織規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成8年4月26日

お茶の水女子大学事務局長 砂 本 宏 一

お茶の水女子大学事務組織規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学事務組織規程（平成2年3月28日制定）の一部を次のように改正する。

附則第2項中「研究協力室及び情報処理室」を「研究協力室、大学院事務室及び情報処理室」に改め、同第5項を第7項とし、第6項を第8項とし、第7項を第9項とし、第8項を第10項とし、第4項の次に次の2項を加える。

（大学院事務室）

5 大学院事務室においては、第12条第1号に掲げる人間文化研究科の事務及び次の事務をつかさどる。

- （1）大学院の事務に関し連絡調整すること。
- （2）大学院の事務に関し企画立案すること。
- （3）大学院の自己点検・評価に関すること。
- （4）大学院の将来計画に関すること。
- （5）その他大学院の事務に関すること。

6 大学院事務室に室長を置き、事務職員をもつて充てる。

附 則

この規程は、平成8年5月1日から施行する。

○平成8年度お茶の水女子大学規則第29号

お茶の水女子大学大学資料委員会規程を次のとおり定める。

平成8年5月22日

お茶の水女子大学長 大田次郎

お茶の水女子大学大学資料委員会規程

(設置)

第1条 お茶の水女子大学（以下「本学」という。）に、本学に関する歴史資料、学術資料等（以下「大学資料」という。）の収集、整理・保存基準等の作成及び大学資料の調査等を行うため、お茶の水女子大学大学資料委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項等)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を行う。

- 一 大学資料に関する基本方針の策定
- 二 大学資料の保存、収集基準の策定
- 三 学内大学資料の調査
- 四 緊急に保存、修復を要する大学資料の収集、整理・保存及び修復
- 五 その他大学資料に関する基本的事項の検討

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 附属図書館長
 - 二 各学部から選出された教官各1名
 - 三 大学資料の収集、整理・保存に関して専門的知識を有する教官若干名
- 2 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
- 3 第1項第3号の委員は、学長が指名する。

(任期)

第4条 前条第1項第2号及び第3号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員が欠員となった場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、附属図書館長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(事務)

第6条 委員会の事務は、庶務課及び附属図書館において処理する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し、必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成8年5月22日から施行する。
- 2 この規程施行後最初に任命される第3条第1項第2号及び第3号の委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、平成10年3月31日までとする。

新任部局長紹介



氏名 きたね やし 北根 康志
生年月日 昭和13年6月2日
出身地 千葉県

[経歴]

昭和32年7月 初等中等教育局財務課
昭和44年2月 日本万国博覧会協会
昭和45年10月 大学学術局教職員養成課庶務係長
昭和47年6月 初等中等教育局財務課庶務係長
昭和56年4月 愛知教育大学主計課長
昭和58年6月 管理局助成課課長補佐
昭和59年7月 教育助成局施設助成課課長補佐
昭和61年4月 同 財務課課長補佐
平成2年4月 千葉大学経理部長
平成4年4月 東京医科歯科大学経理部長
平成5年7月 富山医科薬科大学事務局長
平成7年4月 鹿児島大学事務局長
平成8年7月 お茶の水女子大学事務局長

[モットー]

全力投球（緩急をつけながら）

[趣味]

野球、ゴルフ

[就任の言葉]

7月1日付けで、鹿児島大学より転任してまいりました。お茶の水女子大学の一員に加えていただき、大変に光栄でございます。

大学改革、国際化に向けての留学生の受け入れ、キャンパスの美化など、学生にとって魅力ある大学を創るには、学長のもと教官、事務官とそれぞれの分野が一体となり対処していく必要があります。今までの経験を活かしながら、本学の発展・充実に少しでもお役に立つよう、最善を尽くしたいと思っております。

よろしくお願い致します。

学 事

○平成9年度お茶の水女子大学大学院人文科学研究科（修士課程） 日本言語文化専攻社会人学生募集要項

平成9年度お茶の水女子大学大学院人文科学研究科（修士課程）日本言語文化専攻の社会人学生を下記により募集する。

1. 専攻の趣旨及びその内容

日本言語文化専攻は、言語と文化の有機的な結合と人文科学諸分野の学際性とを重視し、国際的に広い視野に立って、日本語教育に対する高度かつ多様な要望に応えうる日本語学・日本語教育学の研究者ならびに実践的日本語教員の養成と、日本語教育関係の在職社会人の再教育のコースである。

本専攻は、日本言語文化学、日本語教育学及び比較言語教育学の3講座を柱とし、日本文化史学、言語学、認知心理学の3講座がこれに協力する。

2. 募集人員及び対象 5名

上記専攻の趣旨により、次の学生を募集する。

大学卒業後2年以上（出願年度の3月末日までの期間を通算して2年間以上となる場合を含む。）の日本語教育の経験を有し、現在、日本語教育に携わる在職社会人で、日本言語文化学・日本語教育学についてさらに高度の専門的能力を養おうとする者

注) ただし、個人教授及び研究会員等の経験歴は、ここでは含まれない。

3. 出願資格 下記該当の女子とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) その他本研究科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

4. 出願手続

- (1) 入 学 願 書 用紙は本学で交付
- (2) 卒 業 証 明 書
- (3) 推 薦 書 指導教官又は主任教官、所属長等により作成されたもの（形式随意）
- (4) 調 査 書 用紙は本学で交付
- (5) 研究報告・計画書 大学における卒業論文・卒業研究の内容及び将来の研究計画を3,000字以内にまとめたもの（用紙は本学で交付）

- (6) 職務内容報告書 日本語教育機関における職務の内容を1,000字以内にまとめたもの
(用紙は本学で交付)
- (7) 健康診断書 用紙は本学で交付
- (8) 写真 正面上半身(5cm×4cm)で、出願3か月以内に撮影したもの3枚願書の指定欄に貼付
- (9) 返信用封筒 郵送の場合に限り、定形(長型3号)封筒にあて先を表記し、350円切手を貼付
- (10) 受験承諾書 在職中の者は所属長の「受験承諾書」、非常勤の場合は「在職証明書」
- (11) 検定料 28,000円
- (12) 検定料納付書 用紙は本学で交付

上記書類等を一括し、所定の期日までに本学に提出のこと。ただし、郵送するときは書留速達郵便とし、検定料は郵便為替で、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記し、封筒に「大学院人文科学研究科入学願書」と朱書すること。

5. 出願期間・願書受付場所

- (1) 出願期間 { 平成8年9月24日(火)～平成8年9月30日(月)
午前9時～12時 午後1時～3時
なお、郵送の場合は、9月30日(月)以前の消印のあるものに限り、期間後に到着した場合でも受理する。
- (2) 受付場所 本学文教育学部事務部
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
(地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

6. 選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験の結果及び調査書、研究報告・計画書、職務内容報告書、健康診断書等を総合して行う。

- (1) 選考期日 平成8年10月7日(月)～10月9日(水)
- (2) 筆記試験・口述試験時間割

10月7日(月)	筆記試験	10月8日(火)・9日(水)
外国語 10:00～11:30	専門科目 13:00～15:00	口述試験 10:00～
英・独・仏・中国語の中から1か国語を選択する。 (注1)	日本語文化学 日本語教育学	主に研究報告・計画書、職務内容報告書にもとづいて行う。

(注1) 外国語の選択科目については、出願の際届け出るものとする。

- (3) 試験場所 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚2丁目1番1号)

7. 入学料及び授業料

入学料	270,000円	授業料（年額）	469,200円	〔前期分 234,600円〕
				〔後期分 234,600円〕

8. 合格者発表

平成8年10月17日（木） 12時頃、文教育学部1号館内掲示板に掲示する。

合格通知書は、文教育学部事務所で受験票を確認のうえ交付する。なお、都合により当日、来学できない合格者には、10月18日（金）に合格通知書を郵送する。

入学手続関係書類は、平成9年2月下旬に送付する。

※ 合格者が募集人員に満たない場合には第2次募集を行うことがある。

9. 注意事項

- (1) 出願書類等の郵送を希望する者は、270円切手を貼った返信用封筒角型2号に宛先を表記したものを同封し、封筒の表に「人文科学研究科出願書類請求」と朱書きして本学「文教育学部事務部」へ請求すること。
- (2) 出願手続後は、書類の変更及び検定料の払い戻しは行わない。
- (3) 合格、不合格に関する問い合わせには一切応じない。
- (4) 「外国人留学生」に関しては、出願書類等が異なるため、本学「学生部学務課留学生係」が取り扱うので、同係に問い合わせること。

お茶の水女子大学 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
電話：東京 (03) 5978-5162・3（文教育学部事務部）
電話：東京 (03) 5978-5143（学務課留学生係）

お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程概要

1. 目的及び使命

本学大学院は本学の目的、使命に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

2. 修業年限 2年

3. 専攻及び入学定員 人文科学研究科に次の専攻を置き、入学定員は次のとおりとする。

専攻名	入学定員	収容定員	専攻名	入学定員	収容定員
哲学専攻	8	16	英文学専攻	7	14
史学専攻	7	14	教育学専攻	11	22
地理学専攻	6	12	舞踊教育学専攻	10	20
日本文学専攻	6	12	日本言語文化専攻	12	24
中国文学専攻	3	6	計	70	140

4. 授業科目履修方法及び課程の修了

(1) 学生は2年以上在学し、それぞれの専攻の授業科目について30単位以上履修しなければならない。

ただし、研究指導を担当する教官が当該学生の研究上特に必要と認めた場合に限り、他の専攻、他研究科又は学部の授業科目を指定して履修させ、これを当該専攻の単位とすることができる。

(2) 課程の修了には、2年以上在学し、所要の単位を修得し、かつ学位論文を提出して最終試験に合格しなければならない。

5. 学位授与

本研究科において、課程を修了した者に対しては、修士（人文科学）の学位を授与する。

6. 主要授業科目・担当教官

専攻	授業科目	担当教官
哲学専攻	哲学特論・演習	教授 土羽三高 教授 屋入浦島 教授 賢佐和 教授 二子謙 助教 元光 助教 光知 助教 正佳 助教 鶴恵
	倫理学特論・演習	教授 土羽三高 教授 屋入浦島 教授 賢佐和 教授 二子謙 助教 元光 助教 光知 助教 正佳 助教 鶴恵
	美学特論・演習	教授 土羽三高 教授 屋入浦島 教授 賢佐和 教授 二子謙 助教 元光 助教 光知 助教 正佳 助教 鶴恵
	社会学特論・演習	教授 土羽三高 教授 屋入浦島 教授 賢佐和 教授 二子謙 助教 元光 助教 光知 助教 正佳 助教 鶴恵
史学専攻	日本史学特論・演習	教授 大田安 教授 小西窪 教授 三山 教授 遲新 教授 口田風澤 教授 添浦本 教授 塚井 教授 勇次秀 教授 奈津文 教授 徹行 教授 躬夫 助教 秀忠 助教 由紀
	東洋史学特論・演習	教授 大田安 教授 小西窪 教授 三山 教授 遲新 教授 口田風澤 教授 添浦本 教授 塚井 教授 勇次秀 教授 奈津文 教授 徹行 教授 躬夫 助教 秀忠 助教 由紀
	西洋史学特論・演習	教授 大田安 教授 小西窪 教授 三山 教授 遲新 教授 口田風澤 教授 添浦本 教授 塚井 教授 勇次秀 教授 奈津文 教授 徹行 教授 躬夫 助教 秀忠 助教 由紀
地理学専攻	人文地理学特論・演習	教授 千栗内田 教授 杉内熊 教授 歳原田宮 教授 谷藤谷 教授 博圭 教授 壽尚忠 教授 兵博 教授 一子賢 教授 衛隆夫 教授 知
	自然地理学特論・演習	教授 千栗内田 教授 杉内熊 教授 歳原田宮 教授 谷藤谷 教授 博圭 教授 壽尚忠 教授 兵博 教授 一子賢 教授 衛隆夫 教授 知
	地誌学特論・演習	教授 千栗内田 教授 杉内熊 教授 歳原田宮 教授 谷藤谷 教授 博圭 教授 壽尚忠 教授 兵博 教授 一子賢 教授 衛隆夫 教授 知
日本文学専攻	上代文学特論・演習	教授 岩平三市 教授 大鈴古 教授 崎野木古 教授 未塚木田 教授 千由紀 教授 紀夏定 教授 常樹 教授 泰啓
	中古世文学特論・演習	教授 岩平三市 教授 大鈴古 教授 崎野木古 教授 未塚木田 教授 千由紀 教授 紀夏定 教授 常樹 教授 泰啓
中国文学専攻	中国文学特論・演習	教授 佐宮藤相 教授 藤尾山原 教授 正和 教授 保樹子 教授 茂
	中国語学特論・演習	教授 佐宮藤相 教授 藤尾山原 教授 正和 教授 保樹子 教授 茂
英文学専攻	英文学特論・演習	教授 内松海老 教授 崎根村 教授 川尾江 教授 正静 教授 和幸 教授 道子 教授 西牛
	米文学特論・演習	教授 内松海老 教授 崎根村 教授 川尾江 教授 正静 教授 和幸 教授 道子 教授 西牛
	英語学特論・演習	教授 内松海老 教授 崎根村 教授 川尾江 教授 正静 教授 和幸 教授 道子 教授 西牛

専攻	授業科目		担当教官			
教育学専攻	教育 学	教育学特論・演習 教育史特論・演習 教育社会学特論・演習 教育行政学特論・演習 教育方法学特論・演習 教育経営学特論・演習 社会教育学特論・演習 博物館学特論・演習 文化人類学特論・演習	教授 助教 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授	教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授	上野浩道 駒込野武 耳塚寛明 (未定) 宮原修 (未定) 小川剛 野光行 田中真砂子	
	心理 学	教育心理学特論 I・II 社会心理学特論 I・II 臨床心理学特論 I・II 発達心理学特論 I・II 認知心理学特論 I・II	教授 助教 教授 教授 教授 教授	教授 教授 教授 教授 教授 教授	内藤俊史 坂元章 春日喬 内田伸子 石口彰彰	
舞踊教育学専攻	舞 踊	舞踊教育学特論・演習 民族舞踊特論・演習 遊戯学特論・演習 遊戯方法論・演習 舞踊美学特論・演習 動作学特論・演習	教授 助教 教授 教授 教授 教授	教授 教授 教授 教授 教授 教授	片岡康子 本田郁子 加賀秀夫 杉山進 石黒節子 森はるみ	
	音 楽	音楽学特論・演習 演奏学特論・演習	教授 助教 教授 教授	教授 教授 教授 教授	徳丸吉彦 永遠原惠三 藤秀一郎 林廣子	
日本語文化専攻	日本語文化学特論・演習 日本語教育方法論・演習 日本語指導法・演習 日本語音声教育方法論 比較言語教育学特論 日本文化史学特論・演習 対照言語学特論・演習 言語心理学特論 外国文化論		教授 助教 教授 教授 助教 教授 教授 教授 教授 教授	教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授	三木紀人 西澤奈津 岡崎友和彦 長(未定) 本郷逕子 大西口勇次郎 中尾俊直 内村田伸子 (未定)	
関連科目	独文学特論・演習 仏文学特論・演習		教授 助教 教授 教授	教授 教授 教授 教授	石丸昭二 菅野健 石川宏 中村弓子	

日 本 言 語 文 化 専 攻 概 要

1. 日本語文化専攻設置の趣旨

日本語文化専攻は、最近の国際社会における日本への関心の高まりとともに、ますます多様化し高度化しつつある日本語および日本文化の学習に対するつよい要望に応えるべく、国際的、学際的な研究理念に立って、学部において種々の専門を修得した幅広い学生を受け入れ、広汎な分野で活躍しうる研究者・実務者を養成することを目的とする独立専攻である。

昭和61年度以降、我が国の国公・私立大学において、学部レベルの日本語教育関係の学科・専攻の整備・拡充が急速に進められてきたが、学部レベルの教育だけでは昨今の多様化し高度化しつつある日本語学習者の要望に十分応えることはむずかしく、かつまた、資格の点でも大学その他の日本語教育機関にポストを得ることは容易でない。そのために、より高度の専門的かつ指導的な日本語教員を養成する大学院修士課程以上の日本語教育関係の専攻の整備が社会的に求められている。

このような国際的、社会的要請に応えるために、本専攻は、日本語とその背景にある日本文化の伝統との密接な関連を重視した学際的な日本語文化の考究を通じて、より高度の専門指導者・研究者、並びに実践的日本語教員を養成するとともに、在職日本語教員の再教育を行うことを目的として設置する。

なお、現職日本語教員等社会人の受け入れにあたっては、授業の一部を夜間その他特定の時間又は時期に開講して、修学の利便をはかる。

2. 授業科目

日本語文化学講座

日本語学特論	選択必修
日本語学演習	選択必修
日本語文化学特論Ⅰ	選択必修
日本語文化学特論Ⅱ	選択必修
日本語文化学演習Ⅰ	選択必修
日本語文化学演習Ⅱ	選択必修
比較文化学特論	選 択
外国文化論	選 択

日本語教育学講座

日本語教育学特論	選択必修
日本語教育方法論	選択必修
日本語指導法演習Ⅰ	選択必修
日本語指導法演習Ⅱ	選択必修
日本語音声表現特論	選択必修
日本語音声表現演習	選択必修
日本語文章表現演習	選択必修
言語哲学特論	選 択
言語分析学演習	選 択

比較言語教育学講座

日本語音声教育方法論	選択必修
比較言語教育学特論	選択必修
比較言語教育学演習	選択必修

日本文化史学講座

日本文化史学特論	選 択
----------	-----

言語学講座

対照言語学特論	選 択
対照言語学演習	選 択

認知心理学講座

言語心理学特論	選 択
---------	-----

特 別 研 究 必 修

※単位数は、特別研究が6単位であるほかは、他の科目はすべて4単位である。

3. 履修方法

本専攻は独立専攻であり、学生は学部において履修した専門が種々多様であるため、入学後に学生個別の状況をふまえて個々の履修科目の指導を行う。

日本語文化専攻社会人学生について

1. 日本語教育の経歴等について

本専攻が対象とする在職社会人は、公的、私的とを問わず、各種の日本語教育機関で常勤又は非常勤で日本語教育に従事している者をいう。

「2年以上の日本語教育の経験」とは、上記の各種日本語教育機関で常勤又は非常勤の従事者としての2年以上であり、非常勤の特殊な勤務形態（たとえば、短期集中授業の講師等）として、通算して2年以上に達する場合も認められる。

在職社会人受験者は、職務内容報告書を提出すると同時に、「入学願書」の「経歴事項」職歴欄を特に詳しく記入すること。記入欄に書ききれない場合には別紙に記入してもよい。

2. 履修形態

社会人学生の履修形態は、第1年次は、職場を離れ通常開講される授業及び研究指導を受け、第2年次については、職場に復帰し、定期的又は集中的に通学し、平日の夜間等に開講する授業及び研究指導を受けることができる。

夜間の開講については、火曜日と木曜日に、それぞれ17:20~18:50 19:10~20:40の2時限を開講している。

○平成9年度お茶の水女子大学大学院理学研究科（修士課程）
学 生 募 集 要 項

1. 出願資格 下記該当の女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成9年3月卒業見込みの者
- (2) 文部大臣の指定した者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 大学3年生で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者
ただし、この件については第2次募集で行う（数学専攻・物理学専攻・生物学専攻）。
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

2. 選抜方法

- (1) 入学者の選抜は、学力検査（筆記試験・口述試験）、調査書等を総合して決定する。
- (2) 外国人学生の選抜は、本学大学院外国人学生規程による。

3. 募集人員及び学力検査

専攻名	募集人員	試験日時	試験科目
数 学	10名	9月4日（水） 9:20～11:20 11:30～12:30 13:30～15:30 16:30～	一般・基礎教育科目（微積分・線形代数・位相空間） 外国語（英語） 専門科目（数学） 口述試験
物 理 学	12名	9月4日（水） 10:00～12:30 13:30～16:00	力学、電磁気学、物理数学（各1問、計3問） 熱・統計力学、量子力学（各1問） 選択問題（物理学の諸分野より出題した3問中から1問を選択） } 計3問
		9月5日（木） 10:00～	口述試験
化 学	12名	9月4日（水） 9:30～12:00 13:00～14:30 14:45～16:45	一般・基礎教育科目（「化学」及び「物理学」又は「生物学」※） 外国語（英語） 専門科目（化学）
		9月5日（木） 10:00～	口述試験
生 物 学	14名	9月4日（水） 10:00～12:00 13:00～15:00 15:30～	外国語（英語） 専門科目（生物学の諸分野より出題した中から4問選択） 口述試験
情報科学	* 12名 （社会人 若干名 含む）	9月4日（水） 10:00～12:00 13:00～16:00	外国語（英語）及び一般・基礎教育科目（微積分・線形代数） 専門科目（情報科学の諸分野より出題した中から3問選択）
		9月5日（木） 10:00～	口述試験

※ 「物理学」又は「生物学」のうち1科目を選択すること。

* 社会人は「社会人特別選抜」募集要項による。

4. 出願期間

平成8年8月19日(月)から平成8年8月23日(金)まで。

なお、郵送する場合は、必ず書留で『大学院理学研究科入学願書』と朱書すること。
(8月23日消印有効)

5. 出願手続

(1) 願書受付

ア 場 所 お茶の水女子大学理学部事務部
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
☎ 03(5978)5287~8
イ 時 間 土・日曜日を除く午前9時から午後3時まで

(2) 提出書類等

ア 志願者名票、受験票及び履歴書(本学所定の用紙)
イ 卒業(又は見込)証明書
ウ 健康診断書(本学所定の用紙)
エ 調 査 書(本学所定の用紙)
オ 検定料 28,000 円(現金又は郵便為替)
カ 検定料納付書(本学所定の用紙)
キ 受験承諾書 在職者及び他の大学院在籍者は、所属長の承諾書を提出すること。
(様式随意)
ク 返信用封筒 郵送の場合に限り、あて先を明記して、80円切手を貼った定型郵便物用封筒(長形3号)を同封すること。

6. 合格者の発表

- (1) 9月12日(木)正午の予定。理学部1号館内掲示板に掲示する。
合格通知書は、理学部2号館事務部で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)なお、当日、受領できない者については郵送する。
- (2) 入学手続関係書類は、平成8年3月中旬に送付する。

7. 入学料及び授業料

- (1) 入 学 料 270,000 円
- (2) 授業料年額 469,200 円

8. そ の 他

- (1) 出願後、書類の変更及び検定料の払戻は行わない。
- (2) 出願書類等の請求は、あて先を明記し、190円切手を貼った角型2号封筒(23.9cm×33.1cm)を同封すること。
- (3) 受験に関する問い合わせは、往復はがきによるか、返信用封筒(切手貼付)を同封し、必ず返信先を明記すること。

9. 第2次募集

実施の有無については、合格発表の日に公示する。

10. 大学所在地案内

都営バス 大塚2丁目停留所前
地下鉄 丸の内線 茗荷谷駅 徒歩約5分
" 有楽町線 護国寺駅(音羽口) 徒歩約5分

**○平成 9 年度お茶の水女子大学大学院理学研究科（修士課程）
社会人特別選抜学生募集要項**

1. 募集の趣旨

お茶の水女子大学の理学研究科（修士課程）では、平成 6 年度から情報科学専攻が設置されました。急速に進歩する情報化社会の要求に応えるため、この専攻では、企業や学校に在職のまま、あるいは家庭での仕事を続けながらも修士の学位が取得できるように、社会に出た女性のための高等教育への道をひらくこととし、ここに昼夜開講制を伴う社会人特別選抜を実施するものです。

2. 募集人員

情報科学専攻 若干名

3. 出願資格

次のいずれかに該当し、平成 9 年 4 月までに 2 年以上の社会経験を経た女子とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 文部大臣の指定した者
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (4) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

4. 選抜方法及び学力検査

入学者の選抜は、学力検査（筆記試験・口述試験）、調査書、希望する研究課題の内容等を総合して決定する。

試験日時	9 月 4 日（水）	10:00 ～12:00	外国語（英語）及び一般・基礎教育科目 （微積分・線形代数） 口述試験
		14:00 ～	

試験場所 お茶の水女子大学

5. 出願期間

平成 8 年 8 月 19 日（月）から平成 8 年 8 月 23 日（金）まで。

なお、郵送する場合は、必ず書留で『大学院理学研究科入学願書』と朱書すること。

（8 月 23 日消印有効）

6. 出願手続

(1) 願書受付

ア 場 所 お茶の水女子大学理学部事務部
〒 112 東京都文京区大塚 2 丁目 1 番 1 号
☎ 03 (5978) 5287～8
イ 時 間 土・日曜日を除く午前 9 時から午後 3 時まで

(2) 提出書類等

- ア 志願者名票、受験票及び履歴書（本学所定の用紙）
- イ 志望理由書（本学所定の用紙）
- ウ 卒業証明書
- エ 調査書（本学所定の用紙）
- オ 受験承諾書（本学所定の用紙、任命権者又は所属企業等の長が作成したもの）
- カ 健康診断書（本学所定の用紙）
- キ 検定料納付書（本学所定の用紙）
- ク 検定料 28,000 円（現金又は郵便為替）
- ケ 返信用封筒 郵送の場合に限り、あて先を明記して、80円切手を貼った定型郵便物用封筒（長形 3 号）を同封すること。

7. 合格者の発表

- (1) 9月12日(木)正午の予定。理学部1号館内掲示板に掲示する。
合格通知書は、理学部2号館事務部で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)なお、当日、受領できない者については郵送する。
- (2) 入学手続関係書類は、平成8年3月中旬に送付する。

8. 入学料及び授業料

- (1) 入学料 270,000 円
- (2) 授業料年額 469,200 円

9. その他

- (1) 出願後、書類の変更及び検定料の払戻は行わない。
- (2) 出願書類等の請求は、あて先を明記し、190円切手を貼った角型2号封筒(23.9cm×33.1cm)を同封すること。
- (3) 受験に関する問い合わせは、往復はがきによるか、返信用封筒(切手貼付)を同封し、必ず返信先を明記すること。

10. 大学所在地案内

都営バス 大塚2丁目停留所前
地下鉄 丸の内線 茗荷谷駅 徒歩約5分
" 有楽町線 護国寺駅(音羽口) 徒歩約5分

11. 昼夜開講制と教育方法の特例について

情報科学専攻では社会人を対象に大学院設置基準第14条の規定による教育方法の特例として昼夜開講制を行うこととし、その概略は次のとおりである。

修士課程の2年のうち、前半の1年間は原則として本学での履修を必要とするが、後半の1年間はスクーリングのしほりを大幅に緩和したかたちで研究指導を受けながら、修士論文を作成することになる。しかし、特別の事情のある場合は、最初の1年間も夏休みなどの活用によって、かなり柔軟な学習形態をとることもできる。

このように、指導教官の指導のもとに受講計画、研究計画について個々に柔軟に対応することができる。

理学研究科（修士課程）各専攻の研究概要

1. 数 学 専 攻

志望区分	担 当 教 官	主 な 研 究 分 野
数 A (解析学)	教授 渡辺ヒサ子 教授 眞島秀子 助教授 前田ミチ 助教授 松崎克彦	ポテンシャル論 微分方程式論 測度論 複素解析学
数 B (代数学)	教授 藤原正彦 助教授 榎本川陽子 助教授 横川光司	数 論 群論及び表現論 代数幾何
数 C (幾何学)	教授 小川洋輔 教授 塚田和 助教授 小野薫	微分幾何 微分幾何 微分幾何及び位相幾何

2. 物 理 学 専 攻

志望区分	担 当 教 官	主 な 研 究 分 野
理 論	教授 柴田文明 教授 太田隆夫 助教授* 菅本晶 助教授 亀井雅博 助教授 森川哲生 助教授 小川功佳	非平衡統計力学、基礎的量子現象、 量子通信理論 物性理論、非平衡開放系の理論 素粒子論 物理学史 宇宙物理学 物性基礎論、可解格子模型の理論と応用 物性理論、表面物理学
実 験	教授 伊藤厚子 教授 富永靖徳 教授 浜谷望	ランダム磁性体の静的・動的構造及び相転移 誘電体・水溶液系のラマン分光と誘電分散 極限条件下の物質構造と相転移

* 本年度生の研究指導は行わない。

3. 化 学 専 攻

志望区分	担 当 教 官	主 な 研 究 分 野
化 A (物理化学)	教授 平野恒夫 助教授 今野美智子 助教授 堀佳也 助教授 鷹野景子	分子の構造、反応性に関する量子化学 生体物質の結晶構造及び反応機構の研究 液晶相形成物質の構造と性質に関する研究 分子の電子構造と化学反応の機構
化 B (無機化学)	教授 福田豊 教授 益田祐一	機能性錯体の合成と反応に関する研究 溶液内の局所構造とそのダイナミックス
化 C (有機化学)	教授 永山肇 助教授 野田眞二	天然物有機化学—主としてテルペン類の合成研究 新規有機合成反応の開拓 —歪及び光エネルギーの利用
化 D (生物化学)	教授 松本勲 助教授 小川温 助教授 武子	動植物レクチンの構造と機能に関する研究 複合糖質の構造と機能に関する研究
化 E (分析化学)	教授* 富田功 教授 藤枝修子	分析化学的に興味のある化学反応 特にイオン交換反応の研究 非線形化学現象の計測に関する 分析化学的研究

* 本年度生の研究指導は行わない。

4. 生物学専攻

担当教官	主な研究分野
教授*清水 碩	植物の老化、クロロフィルの代謝
教授石和 貞男	ショウジョウバエを主とした進化遺伝学、分子遺伝学
教授馬場 昭次	繊毛運動の生理学
教授山下 貴司	単子葉植物の発生と系統
教授芦原 坦	高等植物の代謝制御機構の解析
教授根本 心一	棘皮動物を主とした卵成熟と発生機構
教授室伏 きみ子	真核細胞の生化学、細胞増殖制御
教授松浦 悦子	核外遺伝子系の複製と発現の制御機構
助教授林 正男	高等動物の細胞生物学、遺伝子発現制御、ビトロネクチン
助教授最上 善広	生体運動の制御機構
講師清本 正人	海産無脊椎動物の個体発生における形態形成と細胞分化 (主に臨海実験所で研究)
講師作田 正明	植物培養細胞における二次代謝調節

* 本年度生の研究指導は行わない。

(注) 生活環境センター教官の指導を受けることができる。なお、このことについては生物学科主任に問い合わせること。

5. 情報科学専攻

志望区分	担当教官	主な研究分野
情報数理	教授 笠原 勇二 教授 竹尾 富貴子 助教授 吉田 裕亮子 助教授 浅本 紀子	確率論 情報解析学・作用素論 応用解析学・作用素環論 離散数学・文書処理系
情報処理	教授 佐藤 浩史 教授 細矢 治夫 教授 河村 哲也 教授 長嶋 雲兵衛 助教授 藤代 一成 助教授 粕川 正充	計算物理学・数値処理 グラフ理論の化学への応用・情報化学 数値流体力学・数値シミュレーション 計算化学・並列分散処理・ニューラルネットワーク コンピュータグラフィックス・データベース ヒューマンインターフェイス

大 学 院 理 学 研 究 科 概 要

1. 目 的

お茶の水女子大学大学院は、本学の目的使命に則り、高度の専門学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

2. 履修方法及び課程の修了

(1) 各専攻の授業科目（別表）について、30単位以上修得しなければならない。

ただし、指導教官が当該学生の研究上特に必要と認めた場合には、指導教官が指定した他の専攻、他研究科又は学部の授業科目を履修し、これを修士課程の単位とすることができる。

(2) 課程の修了には、2年以上在学し、所要の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

3. 学 位 の 授 与

理学研究科の課程を修了した者には、本学学位規則により「修士（理学）」の学位を授与する。

4. 授 業 科 目 一 覧

数学専攻

授 業 科 目	単位数		
		複素解析特論 I～IV	各 2
		関数解析特論 I～IV	各 2
代数構造特論 I～IV	各 2	関数方程式特論 I～IV	各 2
整数構造特論 I～IV	各 2	確率統計解析特論 I～IV	各 2
離散構造特論 I～IV	各 2	代数解析特論 I～IV	各 2
位相構造特論 I～IV	各 2	応用数理解析特論 I～IV	各 2
幾何構造特論 I～IV	各 2	数 学 特 論 I～IV	各 2
多様体構造特論 I～IV	各 2	数学特別演習 I～XII	各 2
応用数理構造特論 I～IV	各 2	数 学 講 究 I～V	各 16
実解析特論 I～IV	各 2		

物理学専攻

授 業 科 目	単位数		
		計算物理学特論 I～IV	各 2
		物性物理学特論 I～X	各 2
数理物理学特論 I～IV	各 2	生物物理学特論 I～IV	各 2
基礎物理学特論 I～X	各 2	固 体 特 論 I～VI	各 2
宇宙物理学特論 I～IV	各 2	磁 性 体 特 論 I～IV	各 2
量子物理学特論 I～IV	各 2	物 理 学 特 論 I～XV	各 2
分 子 特 論 I～IV	各 2	現代物理学特論 I～X	各 2
統計力学特論 I～IV	各 2	現代物理学演習 I～X	各 2
素粒子特論 I～IV	各 2	特 別 研 究	14
原子核特論 I～IV	各 2		

化学専攻

授業科目	単位数	無機構造化学	2
反応物理化学特論	2	有機化学特論 I~VI	各 2
天然物有機化学	2	有機化学演習 I・II	各 2
有機合成化学	2	生物化学特論 I~VI	各 2
機器分析特論	2	生物化学演習 I・II	各 2
物性物理化学特論	2	物質代謝特論 VI	2
構造物理化学特論	2	分析化学特論 I~VI	各 2
物理化学特論 I~VI	各 2	分析化学演習 I・II	各 2
物理化学演習 I・II	各 2	構造化学特論 I~VI	各 2
無機化学特論 I~VI	各 2	構造化学演習 I・II	各 2
無機化学演習 I・II	各 2	化学特論 I~V	2
		特別研究	14

生物学専攻

授業科目	単位数	発生生物学特論	2
動物形態学特論	2	動物生理学特論 I・II	各 2
動物発生学特論 I・II	各 2	植物生理学特論 I~III	各 2
細胞生理学特論	2	生化学特論 I・II	各 2
細胞生物学特論 I~III	各 2	生物学特論 I~XX	各 2
植物形態学特論 I・II	各 2	生物学演習 I~X	各 2
遺伝学特論 I~III	各 2	特別研究	14

情報科学専攻

授業科目	単位数	科学情報システム特論	2
情報理論特論	2	ビジュアルコンピューティング特論	2
情報構造特論	2	人間機械系特論	2
エントロピー特論	2	文書処理系特論	2
情報数学特論	2	人工知能特論	2
情報解析学特論	2	数理科学特論	2
数理情報学特論	2	計算物理学特論	2
離散数学特論	2	情報化学特論	2
カテゴリー論特論	2	計算化学特論	2
確率過程特論	2	自然情報学特論	2
確率解析特論	2	環境情報学特論	2
数値解析特論	2	生体情報特論	2
非数値処理特論	2	シミュレーション科学特論	2
コンピュータ・キチヤ特論	2	数値流体力学特論	2
計算機言語特論	2	情報科学特論 I~XII	各 2
データベースシステム特論	2	情報科学特別演習 I・II	各 2
データベースマシン特論	2	特別研究	14

○平成9年度お茶の水女子大学大学院家政学研究所（修士課程）
学 生 募 集 要 項

1. 専攻名及び募集人員

専 攻 名	募集人員
児 童 学 専 攻	8
食 物 学 専 攻	10
被 服 学 専 攻	8
家 庭 経 営 学 専 攻	6

2. 修業年限 2年

3. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成9年3月卒業見込の者
- (2) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 本学の大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

4. 選考方法 入学者の選考は、筆記試験、口述試験及び調査書等を総合して決定する。

5. 出願手続

- (1) 入学願書・写真票及び受験票（用紙は本学所定のもの）
- (2) 卒業証明書又は卒業見込証明書（本学出身者は不要）
- (3) 推 薦 書 指導教官又は主任教官等により作成されたもの（形式随意、用紙はB5版縦長横書とする。）（本学出身者は不要）
- (4) 調 査 書 用紙は本学所定のもの
- (5) 健康診断書 用紙は本学所定のもの
- (6) 写 真 正面上半身の名刺型（4.5 cm×5.5 cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚。（写真票及び受験票に貼付）
- (7) 受験許可書 在職中の者は所属長の許可書を添えること。
- (8) 入学検定料 28,000円

上記出願書類を一括し、検定料を添えて所定の期日までに本学に提出すること。

※郵送（締切日までの消印有効）により出願する際は、書留速達とし、「大学院家政学研究所入学願書在中」と朱書すること。

なお、検定料（郵便為替とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」とだけ記入）と受験票返送用封筒（あて先を表記し、80円切手を貼付）を同封すること。

6. 出願期間・選考期日・願書受付場所

専攻名 \ 区分	出願期間	選考期日
児童学専攻	平成8年	平成8年 9月4日(水)
食物学専攻	8月19日(月)	
被服学専攻)	
家庭経営学専攻	8月23日(金)	

- (1) 受付時間 平日 午前9時～午前11時30分 午後1時～午後3時
- (2) 受付場所 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号 電話(03)5978-5722
 本学生生活科学部事務部 電話(03)5978-5723
 (都バス大塚2丁目又は地下鉄茗荷谷あるいは護国寺下車)
- (3) 第2次募集の実施の有無については、合格発表の日に公示します。

7. 試験時間及び試験場所

(1) 筆記試験・口述試験

専攻名	筆記試験			口述試験 14:40～
	第一外国語 9:30～10:45	第二外国語 10:45～11:30	専門科目 12:30～14:30	
児童学専攻	英語 I	英語 II	発達臨床学 (発達・臨床・障害・ 保育・人間関係等)	専攻(学士論文のある者は学士論文を含む)について行う。

ア. 児童学専攻志願者は、①大学院における研究計画書(2,000字程度)及び ②口述試験面接票を出願の際提出すること。

専攻名	筆記試験		口述試験 15:40～
	外国語 10:00～11:30	専門科目 12:30～15:30	
食物学専攻	英語	1) 一般化学 2) 栄養学・食品学・食品貯蔵学・調理学	専攻(学士論文のある者は学士論文を含む)について行う。

専攻名		筆記試験			口述試験 15:40~
		第一外国語 9:30~10:30	※第二外国語 10:45~11:30	専門科目 12:30~15:30	
被服学専攻	被服材料学 被服整理学	英語 I	英語 II	1) 一般化学 (有機・無機・物理化学) 2) 被服材料学 (繊維化学を含む)・ 被服整理学 (染色化学を含む)	専攻 (学士論文のある者は学士論文を含む) について行う。
	被服構成学		英語 II	1) 被服構成学 2) 被服環境学	
	被服美学		英語II, 独語, 仏語の内一	1) 服飾美学 2) 服飾史 (日本・西洋) 3) 論文	
	流行情報論		英語II, 独語, 仏語の内一	1) 流行情報論 2) 服飾史 (日本・西洋) 3) 論文	

ア. ※第二外国語の受験に際しては辞書を携行して差支えない。

イ. 被服学専攻志願者は、選択科目名を入学願書及び写真票に記入すること。

専攻名		筆記試験			口述試験 14:40~
		第一外国語 9:30~10:30	第二外国語 10:45~11:30	専門科目 12:30~14:30	
家庭経営学専攻	人間科学	英語 I (自然科学系 英文和訳)	英語 II (自然科学系 和文英訳)	人間科学 (人間生物学、 自然人類学を含む)	専攻 (学士論文のある者は学士論文を含む) について行う。
	生活社会科学	英語 I (社会科学系 英文和訳)	英語 II (社会科学系 和文英訳)	生活社会科学 (家族論、ジェンダー論 を含む)	

ア. 英語IIの受験に際しては辞書を携行して差支えない。

イ. 家庭経営学専攻志願者は、①大学院における研究計画 (800 字) 及び②卒業研究要旨又はこれにかわるもの (800 字) を、それぞれB5 版用紙横書にまとめて出願の際提出すること。

ウ. 家庭経営学専攻志願者は、筆記試験の人間科学、または生活社会科学のいずれかを選択し、それを、願書書類にも記載すること。

(2) 試験場所 お茶の水女子大学 (東京都文京区大塚2丁目1番1号)

お茶の水女子大学大学院家政学研究科修士課程概要

1. 目的及び使命

本学大学院は、本学の目的に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

2. 専攻及び学生定員

家政学研究科に次の専攻をおき、学生定員は次のとおりとする。

専攻名	入学定員	総定員
児童学専攻	8	16
食物学専攻	10	20
被服学専攻	8	16
家庭経営学専攻	6	12
計	32	64

3. 授業科目履修方法及び課程の修了

(1) 学生は2年以上在学し、それぞれの専攻課程の授業科目について30単位以上履修しなければならない。

ただし、専攻課程担当の指導教官が当該学生の研究上特に必要と認めた場合に限り、指導教官の指定する他の専攻課程・他研究科及び学部の授業科目を履修して、これを修士課程の単位とすることができる。

(2) 課程の修了には、2年以上在学し所要の単位を修得し、かつ学位論文を提出して最終試験に合格しなければならない。

4. 学位授与

本研究科において、課程を修了した者に対しては、修士の学位を授与する。

5. 専攻別授業科目・担当教官

専攻	授業科目名	担当教官	授業科目名	担当教官
児童学専攻	人間関係学特論	教授 黒田 淑子	児童学特別講義	教授 原 ひろ子
	児童心理学特論	教授 無藤 隆子	児童発達学特論	講師 柴 坂 寿子
	臨床心理学特論	教授 飯長 喜一郎	児童学研究特論	講師 (兼任)
	保育学特論	助教授 田代 和美	人間環境学特論	" "
	発達臨床学特論	" "	児童臨床学特論	" "
	発達神経学特論	教授 水野 悌一人	児童保健学特論	" "
	障害臨床学特論	助教授 山本 政孝	児童社会特論	" "
	児童福祉特論	助教授 杉田 孝夫	児童社会特論	" "
	児童学特別研究	全専任教官	集団理論特論	" "
	児童学特別研究	全専任教官	児童臨床特別実習	" "
食物学専攻	栄養化学特論 I	未定	生物化学特論第II	教授 倉田 忠男子
	栄養化学特論 II	助教授 大塚 恵子	環境生化学特論	教授 大橋 昌典
	食品化学特論 I	教授 小林 彰夫	食品微生物学特論	助教授 大富 永典
	食品化学特論 II	助教授 久保田 紀久枝	食品学特別研究	全専任教官
	食品貯蔵学特論 I	教授 本間 清一	栄養生理学特論	講師 (兼任)
	食品貯蔵学特論 II	助教授 村田 容一	特殊栄養学特論	" "
	調理学特論 I	教授 島田 淳子	食品物性特論	" "
	調理学特論 II	助教授 畑 江 敬子	食品学特別講義	" "
	生物化学特論第I	教授 五十嵐 侑		
被服学専攻	被服材料学特論	教授 小川 昭二郎	服飾美学特論 IV	助教授 徳井 淑子
	被服材料化学特論	" "	服飾史特論 I	助教授 吉村 佳子
	生活材料学特論	助教授 仲西 正	服飾史特論 II	" "
	生活材料化学特論	" "	流行情報特論	教授 板倉 壽郎
	染色化学特論	教授 駒城 素子	情報設計特論	" "
	洗淨科学特論	" "	被服学輪講	全専任教官
	被服衛生学特論	助教授 會川 義寛	被服学特別研究	" "
	応用界面化学	" "	被服物理学特論	講師 (兼任)
	被服環境学特論	教授 田中 辰明	纖維界面化学	" "
	被服構成学特論 I	助教授 長谷部 ヤ	高分子科学特論	" "
	被服構成学特論 III	" "	纖維構造論	" "
	被服構成学特論 II	助教授 田辺 新一	被服構成学特論 V	" "
	被服構成学特論 IV	" "	被服構成学特論 VI	" "
	服飾美学特論 I	教授 小池 三枝	芸術学特論	" "
服飾美学特論 III	" "	被服学特別講義	" "	
服飾美学特論 II	助教授 徳井 淑子			
家庭経営学専攻	家政学原論特論 I	教授 富田 守治	家庭科教育特論 I	助教授 牧野 カツコ
	家政学原論特論 II	助教授 松浦 秀治	家庭科教育特論 II	" "
	生活史特論	" "	女性学特論 I	教授 原 ひろ子
	生活行動論特論	未定	女性学特論 II	助教授 舘 かおる
	家庭管理学特論 I	教授 富田 守	人間行動学特論 I	講師 柴坂 寿子
	家庭管理学特論 II	助教授 鈴木 恵美子	人間行動学特論 II	" "
	人間生体学特論	" "	家族思想史特論	助教授 杉田 孝夫
	人間経済学特論	教授 篠塚 英子	生活社会科学特論 I	" "
	労働経済学特論	助教授 篠塚 美智子	家庭経営学特別研究	全専任教官
	消費者経済学特論	助教授 御船 伝也	生活社会科学特論 II	講師 (兼任)
	家族社会学特論	教授 犬塚 井孝	消費者行動論	" "
	比較家族研究特論	" "	家族関係学特論	" "
	家庭法律学特論	教授 利谷 信義	居住学特論	" "

家政学研究科（修士課程）各専攻の研究概要

1. 児童学専攻

担 当 教 官	主 な 研 究 分 野
教 授 水 野 悌 一	多動や学習障害の早期診断と治療
教 授 黒 田 淑 子	人間関係・生活臨床の諸問題への心理劇的アプローチ
教 授 飯 長 喜一郎	カウンセリングの過程
教 授 無 藤 隆	子どもの生活における学習と発達および対人関係
助教授 杉 田 孝 夫	家族思想・児童福祉思想の比較思想史的研究
助教授 山 本 政 人	コミュニケーションの発達と障害
講 師 田 代 和 美	乳幼児の保育と臨床

2. 食物学専攻

担 当 教 官	主 な 研 究 分 野
教 授 小 林 彰 夫	食品香気成分の化学的分析および合成を含む構造決定
教 授 島 田 淳 子	食品の調理機構の解明および嗜好性の客観評価
教 授 本 間 清 一	食品の加工貯蔵中の成分間反応と着色等の品質形成との関係
教 授 五十嵐 脩	脂溶性ビタミン、必須脂肪酸の生理活性機構の解明
教 授 大 橋 昌 子	生体内オリゴ糖鎖の構造と生理活性の解明
教 授 倉 田 忠 男	アスコルビン酸及びその関連物質の反応性と構造の解析
助教授 久保田 紀久枝	食品中の香気およびその機能性に関する成分の化学
助教授 畑 江 敬 子	調理による食品の化学的、物理的、感覚的变化とその制御
助教授 大 塚 惠	微量栄養素の生理効果および代謝制御
助教授 村 田 容 常	食品中の生物活性物質及び成分間反応の化学・生化学
助教授 富 永 典 子	極限環境下の微細藻類の生理・生化学

3. 被服学専攻

担当教官	主な研究分野
教授 小池三枝	日本近世・近代の服飾と美意識
教授 板倉壽郎	流行情報伝達の構造解明
教授 田中辰明	繊維製造時に必要な空気調和工学の理論
教授 小川昭二郎	被服材料及び有機機能性材料の化学
教授 駒城素子	高分子ビルダーの物性と洗浄機構の解明
助教授 長谷部ヤエ	着衣による生理的影響と熱的快適性
助教授 徳井淑子	フランス服飾史を対象とした服飾表現論
助教授 仲西正	高分子を中心とした生活材料の機能発現機構の解明
助教授 田辺新一	衣住環境の人体的側面からの評価
助教授 會川義寛	体表よりの物理的刺激と人体の応答
助教授 吉村佳子	日本中世の服飾と美意識

4. 家庭経営学専攻

担当教官	主な研究分野
教授 富田守	家政学の学問論および生活行動の生理学的研究
教授 袖井孝子	高齢化社会および個人の加齢に関する研究
教授 利谷信義	家族法の基本問題（氏、離婚、扶養、相続など）の研究
教授 篠塚英子	労働者の行動を労働経済学的手法で研究
教授 原ひろ子	諸文化に於ける人間の一生のジェンダー分析と女性政策の研究
助教授 犬塚伝也	消費者・生活者の視点からの経済学的研究
助教授 牧野カツコ	家庭科教育における教育内容および教育方法の研究
助教授 鈴木恵美子	人の健康に関する生化学的研究、人体の生化学
助教授 松浦秀治	人類の生活史、ヒトの由来と進化およびその編年
助教授 御船美智子	家族の経済生活と家計の構造研究
助教授 館かおる	ジェンダー規範と制度に関する研究
講師 柴坂寿子	人間の対人行動の観察研究

○平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）
学 生 募 集 要 項

1. 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
比較文化学専攻	19名
人間発達学専攻	13名
人間環境学専攻	9名

2. 出願資格

下記に該当する女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成9年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	A	B
	①修士課程を修了した者 ②修士課程在学者で修士論文を 本研究科に提出可能な者	〔 修士課程に在学し9月試験を〕 受験する者
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることが出来る。 提出論文は、試験終了時に返却する。 ※ 修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。	2部 修士論文として提出する予定の研究内容を5,000字以上にまとめること。 (A4版用紙) ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。

3	修士論文（主論文）の要旨	修士論文に代わるものの要旨
	6部 2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚（図表を含む。）におさめること。	
	研究計画書	研究計画書
	6部 1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚におさめること。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	推薦書	指導教官又はそれに準ずる者が作成したもの。（本学所定の用紙）
6	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。（本学所定の用紙）
7	検定料	28,000円（郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
8	受験許可書	在職中の者及び他の大学院に在学中の者は、所属長又は当該大学長が作成したもの。
9	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長形3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

注1) 修士論文等は、英語・独語・仏語及び中国語等により作成されたものも可とするが、英語以外の論文については、5,000字以上の日本語要約を添付すること。

注2) 修士論文に代わるもので、英語・独語・仏語の場合は、A4版ダブルスペース15～30枚とすること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達小包とし、封筒に「人間文化研究科入学願書在中」と朱書すること。

4. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試（前期）	3月入試（後期）
出願期間 ※	平成8年 8月29日（木）～9月4日（水）	平成9年 2月3日（月）～2月7日（金）
言語・論文試験	9月24日（火）	3月3日（月）
口述試験	9月25日（水）～9月27日（金）	3月4日（火）～3月5日（水）
合格発表 ☆	10月4日（金）	3月13日（木）

※ 土曜日・日曜日は、願書受付は行わない。

受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時、郵送の場合は、締切日までの消印有効

☆ 正午に人間文化研究科棟1階公示板に合格者氏名を掲示する。

合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 出願資格(3)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

9月入試(前期) : 平成8年8月22日(木) ~ 8月27日(火)

3月入試(後期) : 平成9年1月27日(月) ~ 1月30日(木)

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。

願書受付場所 : お茶の水女子大学 人間文化研究科棟1階事務室

5. 時間割及び試験場所

	言語・論文試験		口述試験
	10:00~11:15	13:00~14:20	
比較文化学専攻 文化構造論講座 日本文化論講座 言語文化論講座 比較芸術論講座 比較社会構造論講座 異文化交流論講座	論 文	言 語 (英語・独語・仏語・ 中国語・日本古典語 から1言語)	口述試験 (主論文及び 研究計画)
科学文化論講座		言 語(英語)	
人間発達学専攻 発達基礎論講座 発達過程論講座 発達環境論講座 女性学講座		言 語 (英語・独語・仏語・ 中国語・日本古典語 から1言語)	
人間環境学専攻 人間生態論講座 生活環境論講座 環境基礎論講座		言 語(英語)	

注1) 「論文」は人文・社会系と自然系にわかれているので、いずれかを選択すること。

注2) 言語試験について

1. 選択する言語を入学願書に記入すること。

2. 辞書の使用は、認めない。

3. 「日本古典語」は、古文・日本漢文・古文書とし、3種目の中から2種目を試験場で選択すること。

試験場所 : お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

6. 入学料及び授業料

入 学 料 270,000円

授 業 料 469,200円(年額)

7. 入学手続

入学手続関係書類は、平成9年3月中旬に郵送する。

なお、修士課程在学者は、修士の学位を取得した者について入学を認める。

8. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、人間文化研究科事務室に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

平成8年6月

お茶の水女子大学
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
TEL (03) 5978-5821~2

平成9年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）概要

1. 目的

本学の博士課程は、女性研究者が専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、もって、学術水準の向上に寄与することを目的とする。

2. 修業年限 3年（本学の博士課程は、修士課程とは独立の課程である。）

3. 専攻及び入学定員

専攻名	比較文化学専攻	人間発達学専攻	人間環境学専攻	計
入学定員	19	13	9	41

4. 課程の修了

学生は、3年以上在学し、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名	講座名	要旨
比較文化学専攻	文化構造論	文化構造の基礎理論と比較の原理・原論の探求を行うとともに、東洋文化と西洋文化それぞれの要素特質を究明して東西文化の対比対照的考察・交流・交渉関係の解明を行う。具体的実証的東西比較研究と並行して文化一般の構造・機能の本質に迫り、比較文化理論の樹立を目指す。
	日本文化論	日本文学を中心とする日本文化の歴史的・思想的・社会的展開を解明する。すなわち、まず、文学を対象とする研究領域から、歴史・思想・社会・人間関係などの各研究領域を併せて総合的に、日本文化の基本の探求を指向する。
	言語文化論	言語による文化—諸国語の文学を、その言語表現に留意しつつ比較対照し、あるいは、その相互影響の跡をたどって、より大きいパースペクティブの中の文学理論を目指す。また、言語の比較対照によって各国語の特質を究明する。
	比較芸術論	芸術の諸分野における歴史的、地域的比較を行うとともに、各分野相互の比較を、単に現象面のみならず、精神面、機能面からも有機的に行い、芸術的創造ないし表現の本質を究明することを目的とする。

	専攻名	講座名	要旨
比較文化学専攻		比較社会構造論	東洋・西洋の各地域の文化を社会構造の面からとらえる。すなわち、社会構造、その変動過程、あるいは諸社会の接触交流について、歴史学・地理学・文化人類学など諸科学の視角から具体的にとらえるとともに、これを総合的に比較研究し、さらにこれに基づいて日本の社会構造及び文化構造の基本的性格を解明する。
		科学文化論	比較文化学の一環として科学基礎論並びに科学史の研究を行うとともに、人間文化の諸領域に内在する数理的構造を数学的、情報科学的に研究し、個別文化をつらぬく普遍的な文化構造の解明を目指す。
		異文化交流論	国際化の急速な拡大に伴って生じた異民族・異文化相互の受容・学習・共生といった現実的課題を専門的かつ総合的に研究する。特に異文化の伝達と交流に関して、社会生活面を重視したアプローチと異言語学習の理論的な探究を軸に、文化的、歴史的、異文化教育的な研究を進め、新しい観点と国際的視野に立つ日本学 (Japanology) の創造を目指す。
人間発達学専攻	生物学・心理学・教育学・社会学・文化人類学などの総合的寄与によって、人間発達の諸過程についての実証的研究を行い、ライフ・サイクルの各段階における教育環境、制度、目標などの妥当性と可能性を探究し、人間発達の目標を解明する。	発達基礎論	種としての人間発達の特徴を明らかにするために、個体発生・系統発生上の比較考察から出発して、胎児期より老年期に至るまでの発達過程、各発達段階の特性、発達要因などの解明を目指すとともに、歴史的・人間学的考察にたつて総合的な発達目標の検討を行う。
		発達過程論	生涯にわたる人間発達の過程を、保育・教育・臨床等の実践との関連のもとに研究を行う。心理治療、保育の理論、診断、治療、実践の技法、家庭・集団・文化と人間発達との関連の諸問題を含む。
		発達環境論	人間発達と社会環境との関連を歴史的・地域的・国際的比較研究によって解明し、発達の各時期に対応する発達課題と教育課題を探究する。人間発達に影響を及ぼす意図的制度的な教育機関、内容及び非制度的な教育機会について、全体的、体系的に研究し、発達の機会を保障していく理論と方法の確立を目指す。
		女性学	人間社会における女性のあり方及び男性のあり方を特に女性に着目しつつ総合的・学際的に研究する。1970年代以来の女性学関連領域の研究実績を踏まえ、変動する国際社会の現実の中で文化の多様性・個別社会の自律性・個人の価値観の多様性を尊重しつつ発達する人間のあり方を探究することを目指す。

専攻名	講座名	要 旨
人間環境学専攻	人間生態論	人間と自然環境との関係を、生物としての人間の面からと、環境の側からとの二つの研究方向からとらえる。それらの相互の関係の対比と関連とを総合化することによって、新しい人間生態学の基礎をつくりあげ、人類の生存のための最適環境を究明する。
	生活環境論	人間と生活環境との関係を、生活それ自身のあり方と生活より派生する諸問題の解決に焦点をおき、生活物質、素材の基本的条件の検討から生活を目的とする環境の最適状態及び諸条件を解明する。
	環境基礎論	人間をとりまく自然環境の構造及びそこに発生する諸現象の精密な研究を行い、それによって自然の本質を究明し環境学の基礎理論の確立に寄与する。

6. 担当専任教官

専攻名	講座名	授業科目名	担当指導教官
比較文化学専攻	文化構造論	構造分析論	教授 天野正子
		比較文化論	" 羽入佐和子
		東洋文化論	" 佐藤保子
		西洋文化論	" 中村弓子
		文化類型論	" 高島元洋
		文化変動論	" 田中真砂子
比較文化学専攻	日本文化論	古代文学論	教授 平野由紀子
		中世文学論	" 三木紀人
		近代文学論	(未定)
		日本文化思想論	助教授 小風秀雅
		日本文化起源論	教授 安田次郎
		日本文化発達論	" 市古夏生
		日本語教育論	助教授 岩崎千鶴
比較文化学専攻	言語文化論	比較語彙論	教授 宮川幸久子
		表現構造論	助教授 内田正江
		言語構造論	教授 海老根静江
		日独比較言語文化論	" 石丸昭二
		日仏比較言語文化論	助教授 中村俊直
		対照言語論	教授 相原茂泰
		比較文学論	" 鈴木
比較文化学専攻	比較芸術論	比較舞踊論	教授 片岡康子
		比較音楽論	" 遠藤秀一郎
		東洋芸術論	" 藤山和子

専攻名	講座名	授業科目名	担当指導教官
比較文化学専攻	比較芸術論	比較造形論 西洋造形論 比較民族音楽論 生活芸術論	教授 秋山光文 " 板倉壽郎 " 徳丸吉三 小池三枝
	比較社会構造論	東洋社会論 西洋社会論 比較社会生態論 地域生態論 比較地域論 社会構造発達史	教授 窪添慶文 " 石川秀宏 助教授 山本尚行 教授 栗原博子 " 内藤塚忠躬
	科学文化論	科学史論 数理情報論 構造数理論 言語数理論 構造認識論 情報処理論 確率情報論 科学技術方法論	助教授 亀井理 教授 小川洋 " 辺ヒサ子 " (未定) 教授 細矢治 " 富永靖 " 竹尾富貴 佐藤浩史
	異文化交流論	異文化環境論 国際日本学 日本語教育方法論 日本語生活論 第二言語習得論 文化交流発達論 民族関係論 アジア文化論 異文化教育論	教授 千歳壽一 助教授 岡崎和 教授 長友(未定) " 西尾正道 " 藤原孝 " 袖井孝節 助教授 石耳塚寛
人間発達学専攻	発達基礎論	人間基礎論 発達発達思想史 比較教育障害論 発達体発達	教授 土屋賢二 " 内藤川俊 助教授 上野義 教授 春日浩 " 森下はるみ
	発達過程論	人間関係論 発達期発達過程論 初保発達過程論	教授 黒田淑子 助教授 鷹野光 教授 水野悌 " 無内藤伸 " 田藤一 " 野藤隆 " 内藤子
	発達環境論	発達環境論 教育家族関係基礎論 成人家族関係基礎論	教授 宮原修 " (未定) 教授 小川剛 " 飯長喜一郎 " 加賀秀夫

専攻名	講座名	授業科目名	担当指導教官
人間発達学専攻	女性学	ジェンダー形成論 比較ジェンダー論 女性動態論 男女平等政策論 国際女性開発論 家族変動論	助教授 館原 かおる 教授 大 口 ひろ子 " 利 谷 勇次郎 " 篠 口 信義子 助教授 牧 塚 英子 野 カツコ
人間環境学専攻	人間生態論	人間生態論 生理環境論 生命構造論 共生現象論 地域環境論 環境指標論 ニューロ素子論	教授 富田 守碩 " 清水 正昭 助教授 林 場 昭兵衛 教授 馬 場 心一 " 田 宮 本 男 " 根 本 和 貞 " 石 和 貞
	生活環境論	食生活資源論 衣生活素材論 食品加工保存論 生体物質論 生物質代謝論 環境浄化論 栄養制御論 食生活素材論 衣生活環境論	教授 小 林 彰 夫 " 駒 城 素 子 " 島 田 淳 永 野 肇 (未定) 教授 本 間 清 一 " 倉 田 忠 男 " 五十嵐 脩 " 小 川 昭 二 郎
	環境基礎論	環境分析論 環境制御論 境界構造論 数理自然論 数散現象論 統計現象論 科学モデル基礎論	教授 富田 功 (未定) 教授 伊藤 厚子 " 松本 勲 " 平野 恒夫 " 真島 秀文 " 柴田 文 藤 枝 修 明子

○平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）
外国人留学生学生募集要項

1. 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
比較文化学専攻	若干名
人間発達学専攻	若干名
人間環境学専攻	若干名

2. 出願資格

下記に該当する外国人女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成9年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
 - (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
 - (3) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- （注）日本において高等学校を卒業した者は、日本人志願者用の募集要項により手続をすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修士論文等	
	A	B
	①修士課程を修了した者 ②修士課程在学者で修士論文を 本研究科に提出可能な者	修士課程に在学し9月試験を 受験する者
	修士論文	修士論文に代わるもの
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることが出来る。 提出論文は、試験終了時に返却する。 ※ 修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。	2部 修士論文として提出する予定の研究内容を5,000字以上にまとめること。 (A4版用紙) ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。

3	修士論文（主論文）の要旨	修士論文に代わるものの要旨
	6部 2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚（図表を含む。）におさめること。	
	研究計画書	研究計画書
	6部 1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚におさめること。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	推薦書	指導教官又はそれに準ずる者が作成したもの。（本学所定の用紙）
6	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。（本学所定の用紙）
7	検定料	28,000円
8	受験許可書	在職中の者及び他の大学院に在学中の者は、所属長又は当該大学長が作成したもの。
9	外国人登録済証明書（出願時に、日本国内に在住している者） 戸籍謄本又は出生証明書等（出願時に、日本国外に在住している者）	
10	保証人届	我が国に居住する保証人の保証書（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
11	その他	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。
12	返信用封筒	受験票返送用封筒（長形3号）に宛名を明記し、350円切手を貼付すること。

注1) 修士論文等は、英語・独語・仏語及び中国語等により作成されたものも可とするが、英語以外の論文については、5,000字以上の日本語要約を添付すること。

注2) 修士論文に代わるもので、英語・独語・仏語の場合は、A4版ダブルスペース15～30枚とすること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること。（代理人可）

4. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試(前期)	3月入試(後期)
出願期間	平成8年 8月29日(木)～9月2日(月)	平成9年 2月3日(月)～2月5日(水)
言語・論文試験	9月24日(火)	3月3日(月)
口述試験	9月25日(水)～9月27日(金)	3月4日(火)～3月5日(水)
合格発表	10月4日(金)	3月13日(木)

※ 土曜日・日曜日は、願書受付は行わない。

受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時

☆ 正午に人間文化研究科棟1階公示板に合格者氏名を掲示する。

合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 出願資格(3)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

9月入試(前期)：平成8年8月22日(木)～8月27日(火)

3月入試(後期)：平成9年1月27日(月)～1月30日(木)

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。

願書受付場所：お茶の水女子大学 学生部学務課留学生係

5. 時間割及び試験場所

	言語・論文試験		口述試験
	10:00～11:15	13:00～14:20	
比較文化学専攻 文化構造論講座 日本文化論講座 言語文化論講座 比較芸術論講座 比較社会構造論講座 異文化交流論講座	論 文	言 語 (英語・独語・仏語・ 中国語・日本語・日本 古典語から1言語)	口述試験 (主論文及び 研究計画)
科学文化論講座		言 語(英語)	
人間発達学専攻 発達基礎論講座 発達過程論講座 発達環境論講座 女性学講座		言 語 (英語・独語・仏語・ 中国語・日本語・日本 古典語から1言語)	
人間環境学専攻 人間生態論講座 生活環境論講座 環境基礎論講座		言 語(英語)	

注1) 「論文」は人文・社会系と自然系にわかれているので、いずれかを選択すること。

注2) 言語試験について

1. 選択する言語を入学願書に記入すること。
2. 辞書の使用は、認めない。

3. 「日本古典語」は、古文・日本漢文・古文書とし、3種目の中から2種目を試験場で選択すること。

4. 母国語以外の言語を選択すること。

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

6. 入学料及び授業料

入 学 料	270,000円
授 業 料	469,200円(年額)

7. 入学手続

入学手続関係書類は、平成9年3月中旬に郵送する。

なお、修士課程在学者は、修士の学位を取得した者について入学を認める。

8. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、学務課留学生係に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

平成8年6月

お茶の水女子大学

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

TEL (03) 5978-5821~2

平成9年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）概要

1. 目的

本学の博士課程は、女性研究者が専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、もって、学術水準の向上に寄与することを目的とする。

2. 修業年限 3年（本学の博士課程は、修士課程とは独立の課程である。）

3. 専攻及び入学定員

専攻名	比較文化学専攻	人間発達学専攻	人間環境学専攻	計
入学定員	19	13	9	41

4. 課程の修了

学生は、3年以上在学し、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名	講座名	要旨
比較文化学専攻	文化構造論	文化構造の基礎理論と比較の原理・原論の探求を行うとともに、東洋文化と西洋文化それぞれの要素特質を究明して東西文化の対比対照的考察・交流・交渉関係の解明を行う。具体的実証的東西比較研究と並行して文化一般の構造・機能の本質に迫り、比較文化理論の樹立を目指す。
	日本文化論	日本文学を中心とする日本文化の歴史的・思想的・社会的展開を解明する。すなわち、まず、文学を対象とする研究領域から、歴史・思想・社会・人間関係などの各研究領域を併せて総合的に、日本文化の基本の探求を指向する。
	言語文化論	言語による文化—諸国語の文学を、その言語表現に留意しつつ比較対照し、あるいは、その相互影響の跡をたどって、より大きいパースペクティブの中で文学理論を目指す。また、言語の比較対照によって各国語の特質を究明する。
	比較芸術論	芸術の諸分野における歴史的、地域的比較を行うとともに、各分野相互の比較を、単に現象面のみならず、精神面、機能面からも有機的に行い、芸術的創造ないし表現の本質を究明することを目的とする。

専攻名	講座名	要 旨
比較文化学専攻	比較社会構造論	東洋・西洋の各地域の文化を社会構造の面からとらえる。すなわち、社会構造、その変動過程、あるいは諸社会の接触交流について、歴史学・地理学・文化人類学など諸科学の視角から具体的にとらえるとともに、これを総合的に比較研究し、さらにこれに基づいて日本の社会構造及び文化構造の基本的性格を解明する。
	科学文化論	比較文化学の一環として科学基礎論並びに科学史の研究を行うとともに、人間文化の諸領域に内在する数理的構造を数学的、情報科学的に研究し、個別文化をつらぬく普遍的な文化構造の解明を目指す。
	異文化交流論	国際化の急速な拡大に伴って生じた異民族・異文化相互の受容・学習・共生といった現実的課題を専門的かつ総合的に研究する。特に異文化の伝達と交流に関して、社会生活面を重視したアプローチと異言語学習の理論的な探究を軸に、文化的、歴史的、異文化教育的研究を進め、新しい観点と国際的視野に立つ日本学 (Japanology) の創造を目指す。
人間発達学専攻	発達基礎論	種としての人間発達の特質を明らかにするために、個体発生・系統発生上の比較考察から出発して、胎児期より老年期に至るまでの発達過程、各発達段階の特性、発達要因などの解明を目指すとともに、歴史的・人間学的考察にたつて総合的な発達目標の検討を行う。
	発達過程論	生涯にわたる人間発達の過程を、保育・教育・臨床等の実践との関連のもとに研究を行う。心理治療、保育の理論、診断、治療、実践の技法、家庭・集団・文化と人間発達との関連の諸問題を含む。
	発達環境論	人間発達と社会環境との関連を歴史的・地域的・国際的比較研究によって解明し、発達の各時期に対応する発達課題と教育課題を探求する。人間発達に影響を及ぼす意図的制度的な教育機関、内容及び非制度的な教育機会について、全体的、体系的に研究し、発達の機会を保障していく理論と方法の確立を目指す。
	女性学	人間社会における女性のあり方及び男性のあり方を特に女性に着目しつつ総合的・学際的に研究する。1970年代以来の女性学関連領域の研究実績を踏まえ、変動する国際社会の現実の中で文化の多様性・個別社会の自律性・個人の価値観の多様性を尊重しつつ発達する人間のあり方を探究することを目指す。

専攻名		講座名	要 旨
人間環境学専攻	文化の主体をなす人間の生態・行動形式の探究の基礎の上に生活に密着した物質文化の様態を、人間と環境とのかかわり合いという視点より解明を行う。	人間生態論	人間と自然環境との関係を、生物としての人間の面からと、環境の側からとの二つの研究方向からとらえる。それらの相互の関係の対比と関連とを総合化することによって、新しい人間生態学の基礎をつくりあげ、人類の生存のための最適環境を究明する。
		生活環境論	人間と生活環境との関係を、生活それ自身のあり方と生活より派生する諸問題の解決に焦点をおき、生活物質、素材の基本的条件の検討から生活を目的とする環境の最適状態及び諸条件を解明する。
		環境基礎論	人間をとりまく自然環境の構造及びそこに発生する諸現象の精密な研究を行い、それによって自然の本質を究明し環境学の基礎理論の確立に寄与する。

6. 担当専任教官

専攻名	講座名	授業科目名	担当指導教官
比較文化学専攻	文化構造論	構造分析論 比較文化論 東洋文化論 西洋文化論 文化類型論 文化変動論	教授 天野正子 " 羽入佐和子 " 佐藤保子 " 中村弓子 " 高島元洋子 " 田中真砂子
	日本文化論	古代文学論 中世文学論 近代文学論 日本文化思想論 日本文化起源論 日本文化発達論 日本語教育論	教授 平野由紀子 " 三木紀人 (未定) 助教授 小風秀雅 教授 安田次郎 " 市古夏生 助教授 岩崎千鶴
	言語文化論	比較語彙論 表現構造論 言語構造論 日独比較言語文化論 日仏比較言語文化論 対照言語論 比較文学論	教授 宮川幸久子 助教授 内田正静 教授 海老根江二 " 石丸昭俊 助教授 中村俊直 教授 相原茂泰 " 鈴木泰
	比較芸術論	比較舞踊論 比較音楽論 東洋芸術論	教授 片岡康子 " 遠藤秀一郎 " 藤山和子

専攻名	講座名	授業科目名	担当指導教官
比較文化学専攻	比較芸術論	比較造形論 西洋造形論 比較民族音楽論 生活芸術論	教授 秋山光文 " 板倉壽郎 " 徳丸吉彦 小池三枝
	比較社会構造論	東西洋社会論 比較社会論 地域社会態論 比較地域論 社会構造発達史	教授 窪添慶文 " 石川秀宏 助教授 山本尚行 教授 栗原博子 " 内藤忠躬 " 遅塚
	科学文化論	科学史論 数理情報論 構造数理論 言語認識論 構造物処理論 情報報論 確率情報報論 科学技術方法論	助教授 亀井理輔 教授 小川洋七 " (未定) サ子 教授 細矢治夫 " 富永靖貴 " 竹尾富浩 " 佐藤浩史
	異文化交流論	異文化環境論 国際日本学 日本語教育方法論 日本語生活論 第二言語習得論 文化交流発達論 民族関係論 アジア文化論 異文化教育論	教授 千歳壽一 助教授 岡崎友和 教授 長友(未定) 彦 教授 西尾道正 " 藤原孝子 " 袖井孝子 助教授 石黒節子 耳塚寛
人間発達学専攻	発達基礎論	人間基礎論 発達思想史論 比較教育障害論 発達体発達論	教授 土内賢二 助教授 上會俊義 教授 春上浩道 " 森下はるみ
	発達過程論	人間発達論 発達過程論 発達過程論	教授 黒田淑子 助教授 鷹野光 教授 水無内藤伸 " 田野一隆 " 藤田伸子
	発達環境論	発達環境論 教育習係論 家族関係基礎論	教授 宮原修 教授 (未定) 剛 " 小川喜一郎 " 飯長喜秀 加賀夫

専攻名	講座名	授業科目名	担当指導教官
人間発達学専攻	女性学	ジェンダー形成論 比較ジェンダー論 女性動態論 男女平等政策論 国際女性開発論 家族変動論	助教授 館 かねる 教授 原 ひろ子 " 大 口 勇次郎 " 利 谷 信義 " 篠 塚 英子 助教授 牧 野 カツコ
人間環境学専攻	人間生態論	人間生態論 人生環境論 生命構造論 共生現象論 地域環境論 環境指標論 ニューロ素子論	教授 富 田 守 碩 " 清 水 正 昭 助教授 林 場 男 次 衛 教授 馬 場 兵 衛 " 田 宮 心 一 " 根 本 貞 男 " 石 和 貞 男
	生活環境論	食生活資源論 衣食生活素材論 食品加工保存論 生物体物質論 物質代謝論 環境浄化論 栄養制御論 衣食生活素材論 衣食生活環境論	教授 小 林 彰 夫 " 駒 城 素 子 " 島 田 淳 " 永 野 肇 教授 (未 定) " 本 間 清 一 " 倉 田 忠 男 " 五 十 嵐 脩 二 " 小 川 昭 郎
	環境基礎論	環境分析論 環境制御論 境界構造論 数理自然現象論 数拡散現象論 統計現現象論 科学モデル基礎論	教授 富 田 功 教授 (未 定) " 伊 藤 厚 子 " 松 本 勲 夫 " 平 野 恒 夫 " 真 島 秀 文 " 柴 藤 枝 文 修 " 藤 枝 文 修

○平成9年度お茶の水女子大学理学部第3年次編入学 学 生 募 集 要 項

お茶の水女子大学理学部では、平成8年度から第3年次編入学試験を実施しています。

本学部では、社会における女性の地位向上と相まって要請されている、高度な学識と広い視野を持つ女子学生の育成を目指してきました。高等教育の多様化の一環として、既に社会人として活躍しておられる方々のリカレント教育や、短期大学・高等専門学校を卒業して更に深い専門知識を求めようとする方に、より高度な理学部専門教育の機会を提供することが、この制度の趣旨であります。

これが、自然科学の修学を目指す女性の方々の更なる高みへの飛翔の出発点となることを期待いたします。

I 一般選抜

1. 募集人員

学 科	募集人員
数 学 科	若 干 名
物 理 学 科	若 干 名
化 学 科	若 干 名
生 物 学 科	若 干 名
情 報 科 学 科	若 干 名

2. 出願資格

次のいずれかに該当する女子とする。

学 科	出 願 資 格
数 学 科 物 理 学 科 化 学 科 生 物 学 科	(1)大学を卒業した者及び平成9年3月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者及び平成9年3月卒業見込みの者 (3)高等専門学校を卒業した者及び平成9年3月卒業見込みの者 (4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び 修了見込みの者 (5)平成9年3月までに大学に2年以上在学し、62単位以上修得見込の者
情 報 科 学 科	(1)大学を卒業した者及び平成9年3月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者及び平成9年3月卒業見込みの者 (3)高等専門学校を卒業した者及び平成9年3月卒業見込みの者 (4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び 修了見込みの者

3. 出願期間

平成8年6月20日(木)から平成8年6月26日(水)まで。(必着のこと)

4. 出願手続

(1) 提出書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業（見込）証明書又は在学証明書	
成績証明書（履修中の科目も記載すること。）	
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	28,000 円（郵便為替）
返信用封筒	あて先を明記して、350円切手を貼った定型郵便物用封筒を同封すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括して、必ず書留で理学部事務部あてに郵送すること。

なお、『理学部第3年次編入学願書』と朱書すること。

お茶の水女子大学理学部事務部

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

☎ 03（5978）5287～8

5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査（筆記試験・口述試験）及び成績証明書等を総合して判定する。

学科名	7月 3日（水）	
	試験科目	時 間
数 学 科	数 学*	10:00～12:00
	英 語	13:00～14:00
	口述試験	15:00～
物 理 学 科	数 学	9:00～10:30
	物 理 学	10:40～12:10
	口述試験	13:30～
化 学 科	化 学	10:00～12:00
	英 語	13:00～14:00
	口述試験	15:00～
生 物 学 科	小 論 文	10:00～12:00
	英 語	13:00～14:00
	口述試験	15:00～
情 報 科 学 科	数 学	9:00～10:30
	情 報**	10:40～12:10
	英 語	13:00～14:00
	口述試験	15:00～

* 微分・積分，行列と行列式

** 情報処理2種程度

Ⅱ 社会人特別選抜

1. 募集人員

学 科	募集人員
数 学 科	} 若 干 名
物 理 学 科	
化 学 科	
生 物 学 科	
情 報 科 学 科	

2. 出願資格

入学時に社会人としての経験を1年以上有し、次のいずれかに該当する女子とする。

学 科	出 願 資 格
数 学 科	(1)大学を卒業した者
物 理 学 科	(2)短期大学を卒業した者
化 学 科	(3)高等専門学校を卒業した者
生 物 学 科	(4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者
情 報 科 学 科	

なお、入学時において現職のまま入学しようとする者は、入学手続の際に企業等の所属長の入学承諾書（様式随意）を提出すること。

3. 出願期間

平成8年6月20日（木）から平成8年6月26日（水）まで。（必着のこと）

4. 出願手続

(1) 提出書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業証明書	
成績証明書	
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	28,000 円（郵便為替）
返信用封筒	あて先を明記して、350円切手を貼った定型郵便物用封筒を同封すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括して、必ず書留で理学部事務部あてに郵送すること。
なお、『理学部第3年次(社会人特別選抜)編入学願書』と朱書すること。

お茶の水女子大学理学部事務部

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

☎ 03(5978)5287~8

5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査(筆記試験・口述試験)及び成績証明書等を総合して判定する。
なお、詳細については、理学部事務部へ問い合わせること。

学科名	7月 3日(水)	
	試験科目	時間
数学科	数学*	10:00~12:00
	英語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
物理学科	数学	9:00~10:30
	物理学	10:40~12:10
	口述試験	13:30~
化学科	化学	10:00~12:00
	英語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
生物学科	小論文	10:00~12:00
	英語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
情報科学科	数学	9:00~10:30
	情報**	10:40~12:10
	英語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~

* 微分・積分, 行列と行列式

** 情報処理2種程度

Ⅲ 合格発表等

1. 合格者の発表

- (1) 7月11日(木)正午の予定。理学部1号館内掲示板に掲示する。
合格者には、合格通知書を郵送する。
- (2) 入学手続関係書類は、平成9年3月中旬に送付する。

2. 入学料及び授業料

- (1) 入学料 270,000 円
- (2) 授業料年額 447,600 円

3. 修学条件

入学の時期は平成9年4月とし、編入学後2年以上4年以内に本学理学部履修規程に定める授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者については、学士(理学)の学位を授与する。

4. その他

- (1) 出願後、書類の変更及び検定料の払戻は行わない。
- (2) 出願書類等の請求は、あて先を明記し、190円切手を貼った角型2号封筒(23.9cm×33.1cm)を同封すること。
- (3) 受験に関する問い合わせは、往復はがきによるか、返信用封筒(切手貼付)を同封し、必ず返信先を明記すること。

10. 大学所在地案内

都営バス	大塚2丁目停留所前
地下鉄	丸の内線 茗荷谷駅 徒歩約5分
”	有楽町線 護国寺駅(音羽口) 徒歩約5分

お茶の水女子大学理学部履修概要

1. 履修方法及び課程の修了

- (1) 卒業するためには、本学理学部履修規程に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。
- (2) 本学部に編入学前に在学した大学等において修得した単位については、本学部の定める基準に従って卒業要件単位として認定する。
- (3) 卒業に必要な単位を修得した者については、学士（理学）の学位を授与する。

2. 各学科の授業科目

学 科	専 攻 科 目 (必 修)
数 学 科	初等代数学, 線形代数, 同演習, 微分積分学, 同演習, 微分積分学統論, 同演習, 線形代数統論, 幾何学序論, 同演習, 位相空間論, 同演習, 離散数学, 同演習, 関数論, 同演習, 現代数学講話, 数学講究
物 理 学 科	古典力学, 解析力学, 力学系理論, 電磁気学 I・II, 物理数学 I・II, 数理物理学, 量子力学 I・II, 多体系量子力学, 熱・統計力学, 量子統計力学, 固体電子論, 相転移物理学, 凝縮系物理学, 原子核物理学, 素粒子物理学, 基礎物理学実験, 物理学実験, 特別研究
化 学 科	基礎物理化学, 定量分析化学・化学平衡論, 構造有機化学, 基礎無機化学, 構造生化学, 構造物理化学, 物性物理化学, 機器測定法, 反応有機化学, 構造無機化学, 生体分子反応学, 分子分光学, 基本化学実験, 無機化学実験, 分析化学実験, 有機化学実験, 物理化学実験, 生物化学実験, 化学演習, 特別研究
生 物 学 科	生化学, 生物物理学, 動物系統学, 植物形態学, 植物生理学, 基礎遺伝学, 分子遺伝学, 分子細胞生物学, 代謝生物学, 細胞生物学, 動物生理学, 発生生物学, 生物学実習 I・II, 生物学演習, 特別研究
情報科学科	線形代数, 微分積分学, 数理基礎論, 計算機システム序論, データ構造とアルゴリズム, 確率序論, 関数論, 離散数学, プログラム作成実習, 自然情報基礎論, 数値計算, 情報理論, 計算基礎論, オペレーティングシステム, 言語理論とオートマトン, 特別研究

※ 上記授業科目以外に、専攻科目（選択）、関連科目が多数開講されている。

○平成9年度お茶の水女子大学生生活科学部第3年次編入学 学 生 募 集 要 項

お茶の水女子大学生生活科学部では、平成8年度から第3年次編入学試験を実施している。
本学部では、社会における女性の地位向上と相まって要請されている、高度な学識と広い視野を持つ女子学生の育成を目指してきました。高等教育の多様化の一環として、既に社会人として活躍している方々のリカレント教育や、短期大学及び高等専門学校を卒業して、更に深い専門知識を求めようとする方々へ、より高度な生活科学の専門教育の機会を提供することがこの制度の趣旨です。

1. 募集人員

学 科	募集人員
生活環境学科	} 10名以内
人間生活学科	

2. 出願資格 次のいずれかに該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成9年3月卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者及び平成9年3月卒業見込みの者
- (3) 高等専門学校を卒業した者及び平成9年3月卒業見込みの者
- (4) 外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び修了見込みの者
- (5) 平成9年3月までに大学に2年以上在学し、62単位以上修得見込の者

3. 出願期間

平成8年10月23日（水）から平成8年10月29日（火）まで。（必着のこと）

4. 出願手続

(1) 出願書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業（又は見込）証明書又は在学証明書	
成績証明書	
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	28,000 円（郵便為替）
返信用封筒	あて先を明記して、350 円切手を貼った定型郵便物用封筒を同封すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括して、必ず書留で生活科学部事務部あてに郵送すること。

なお、『生活科学部第3年次編入学願書』と朱書すること。

お茶の水女子大学生生活科学部事務部

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

TEL 03 (5978) 5722~3

5. 選抜方法

学力検査（筆記試験）及び成績証明書等を総合して、第一次合格者を判定し、第一次合格者に面接試験を行って最終合格者を決定する。

○ 第一次試験（筆記試験）

学 科	11月13日（水）	
	試験科目	時 間
生活環境学科	英語（一般） 自然科学*	9：30～12：00
人間生活学科	英語（一般） 英語（分野別）	9：30～12：00

* 物理・化学・生物に関する基礎知識

○ 第二次試験（面接試験） 平成8年12月4日（水）

6. 合格者の発表

- (1) 第一次試験合格発表 平成8年11月25日（月）までに第一次選考合格通知書を送付する。
- (2) 第二次試験合格発表 平成8年12月12日（木）正午の予定。生活科学部掲示板に掲示するとともに合格者には、合格通知書を郵送する。
入学手続関係書類は、平成9年2月中旬に送付する。

注）電話等による合否の問い合わせには一切応じない。

7. 入学料及び授業料

- (1) 入 学 料 270,000 円
- (2) 授業料年額 447,600 円

8. 修学条件

入学の時期は平成9年4月とし、編入学後2年以上4年以内に本学生活科学部履修規程に定める授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者については、学士（生活科学）の学位を授与する。

9. そ の 他

- (1) 出願後、書類の変更及び検定料の払戻は行わない。
- (2) 出願書類等の請求は、あて先を明記し、390円切手を貼った角型2号封筒(23.9cm×33.1cm)を同封すること。
- (3) 受験に関する問い合わせは、往復はがきによるか、返信用封筒（切手貼付）を同封し、必ず返信先を明記すること。

人 事

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	官 職 等	異 動 前 の 所 属 ・ 職 名
◇ 採 用			
8. 5. 11	早 川 文 代	助手（大学院人間文化研究科）	
◇ 配 置 換			
8. 5. 11	原 ひろ子	教 授（ジェンダー研究センター）	教 授（生活環境研究センター）
"	館 かおる	助教授（ジェンダー研究センター）	助教授（生活環境研究センター）
◇ 昇 任			
8. 6. 16	吉 成 政 行	庶務課課長補佐	庶務課専門職員
◇ 併 任			
8. 5. 11	利 谷 信 義	ジェンダー研究センター長 併任期間平成10年3月31日	（生活科学部教授）
◇ 休 職			
8. 6. 3	河 野 暢 子	育児休業 期間平成9年3月31日	（庶務課）
◇ 退 職			
8. 6. 30	砂 本 宏 一	辞 職	事 務 局 長
"	藤 野 義 広	"	学務課教務係教務主任
◇ 臨時的任用			
8. 5. 19	千 葉 千 恵	任用更新 期間平成8年7月16日	（附属高等学校養護教諭）
8. 6. 20	中 村 美 智 子	附属幼稚園教諭 期間平成8年7月30日	

◎非常勤職員

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採用				
8. 5. 1	荒木志子	事務補佐員 (文教育学部)	9. 3. 31	
"	長尾朋子	"	"	
"	井手眞穂	教務補佐員	"	
"	熊谷美穂	"	"	
"	小林ゆい	"	"	
"	小野信子	"	"	
"	鈴野智のぶ	"	"	
"	前田しの	ティーチング・アシスタント	9. 2. 28	
"	角田玲如	"	"	
"	守村春直	"	"	
"	杉中安村	"	"	
"	杉村直紀	"	"	
"	田禾百合	"	"	
"	加茂小百	"	8. 9. 30	
"	渡邊規子	"	9. 2. 28	
"	岩崎裕美	"	"	
"	木原郁子	"	"	
"	小川伊子	"	"	
"	菊池民子	" (大学院人文科学研究科)	"	
"	松井麻依	教務補佐員 (理学部)	8. 9. 30	
"	萩原朋子	ティーチング・アシスタント	"	
"	山崎太夏	"	"	
"	神吉理衣	"	"	
"	大西伸子	"	9. 2. 28	
"	氏家文子	"	8. 9. 30	
"	佐々木紀子	"	"	
"	榎本有美	"	"	
"	大瀬明子	"	"	
"	長野令子	"	"	
"	松井慶子	"	"	
"	田中利果	"	"	
"	福島みどり	"	"	
"	竹房あつ子	"	"	
"	伊藤誉由	"	"	
"	江浦みどり	教務補佐員 (生活科学部)	9. 3. 31	
"	香西礼子	ティーチング・アシスタント	"	
"	川田久美	"	"	
"	北上真美	"	"	
"	谷畠早苗	"	8. 9. 30	
"	竹中真紀	"	"	
"	有城朗子	"	"	
"	雨宮敏子	"	"	
"	菅原真智子	"	"	
"	菅野美穂子	"	"	
"	栗本朋子	教務補佐員 (大学院人間文化研究科)	9. 3. 31	
8. 5. 16	森重久美	" (理学部)	"	
8. 6. 1	森永沢順	事務補佐員 (学生課)	"	
"	門倉弘	"	"	
"	門脇実枝	"	"	

発令年月日	氏 名	官 職 等	任 期	備 考
8. 6. 1	伊藤加奈子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	9. 2. 28	
"	只野薫子	" "	"	
"	中村美奈子	" "	"	
"	田辺敦子	" "	8. 9. 30	
"	伊達敦子	" "	9. 2. 28	
"	平岡洋子	" "	"	
"	佐藤由美子	" "	"	
"	田沢恭子	" "	"	
"	岡田美也子	" "	"	
"	谷口幸代子	" "	"	
"	富山尚子	" "	"	
"	塩崎尚美	" "	8. 9. 30	
"	富士原紀絵	" "	9. 2. 28	
"	森津太子	" "	"	
"	本山方子	" "	8. 9. 30	
"	石川百合子	" "	9. 2. 28	
"	藤原あい子	" "	8. 9. 30	
◇ 配 置 換				
8. 5 11	堀 千鶴子	教務補佐員 (ジェンダー研究センター)	9. 3. 31	教務補佐員(生活環境研究センター)
"	荻野正恵	" "	"	"
"	石井妙子	" "	"	"
"	立花郁子	" "	"	"
◇ 退 職				
8. 5 10	早川文代	教務補佐員 (大学院人間文化研究科)		
8. 5 15	山須三津枝	事務補佐員 (理 学 部)		
8. 6 30	太田千恵子	" (学 務 課)		

◎非常勤講師

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇採用				
8. 5. 1	遠藤美香	講師 (文教育学部)	9. 3. 31	順天堂大学教授 三菱化学生命科学研究所主任研究員 愛知県がんセンター研究所部長 昭和薬科大学助教授 明治学院大学助教授 早稲田大学教授 (財)日本家族計画連盟事務局次長 横浜市立大学助教授
" "	岡部合	" "	" "	
" "	川嶋元	(理学部)	8. 9. 30	
" "	山元大	" "	9. 3. 31	
" "	松影大	" "	8. 9. 30	
" "	神崎夫	" "	" "	
" "	林美咲	(附属中学校)	8. 7. 16	
" "	松本里	" "	" "	
8. 5. 11	伊藤久	(ジェンダ-研究センター)	9. 1. 31	
" "	小林富	" "	9. 3. 31	
" "	小野利	" "	" "	
8. 6. 1	市村文	(理学部)	8. 9. 30	
" "	佐野文	(附属中学校)	8. 7. 16	
◇併任				
8. 5. 1	伊藤誠	講師 (文教育学部)	9. 3. 31	東京大学教授 筑波大学講師 東京外国語大学助教授 東京大学助教授 東京学芸大学助教授 東京大学教授
" "	小林悟	(理学部)	8. 9. 30	
8. 5. 10	新井政	(文教育学部)	" "	
8. 5. 11	大沢真	(ジェンダ-研究センター)	9. 1. 31	
8. 6. 1	長崎勤	(文教育学部)	8. 9. 30	
" "	上田和	(理学部)	" "	
◇退職				
8. 6. 30	山本和郎	講師 (文教育学部)		

諸 報

○ 研修

名 称	実施日時	対 象 者	修 了 者	主 催
平成8年度六大学等事務系初任職員研修 (東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京芸術大学、東京商船大学、東京水産大学、お茶の水女子大学及び学術情報センター)	平成8年 5月8日～ 5月10日	六大学等に、原則として実施時期から過去1年間に新規採用された事務系職員(行政職棒給表(一)の適用者に限る。)	庶務課・庶務係 伊藤 武 会計課・管財係 石井 文弘 学生課・学生係 深川 太郎 附属図書館・総務係 餌取 直子	東京医科歯科大学
平成8年度関東地区接遇研修	平成8年 5月14日～ 5月16日	国家公務員採用Ⅱ種又はⅢ種試験合格者(新規採用者は除く) 原則として年齢28歳未満の者	庶務課・庶務係 伊藤 律子	人事院関東事務局
平成8年度文部省初任施設担当職員研修会	平成8年 6月4日～ 6月7日	施設整備業務の経験年数が1年以上3年以下で30歳未満の者	施設課・設備係 佐々木 健	文 部 省
第23回関東地区係長研修	平成8年 6月25日～ 7月4日	ア 国家公務員採用初級試験、中級試験又はⅡ種試験により採用された者又はこれと同等と認められる者 イ 施設等機関及び地方支分部局の係長又はこれと同等と認められる者 ウ 年齢40歳未満の者 エ 勤務成績が優秀な者	会計課・用度係 富山 弘	人事院関東事務局

○ 海外渡航

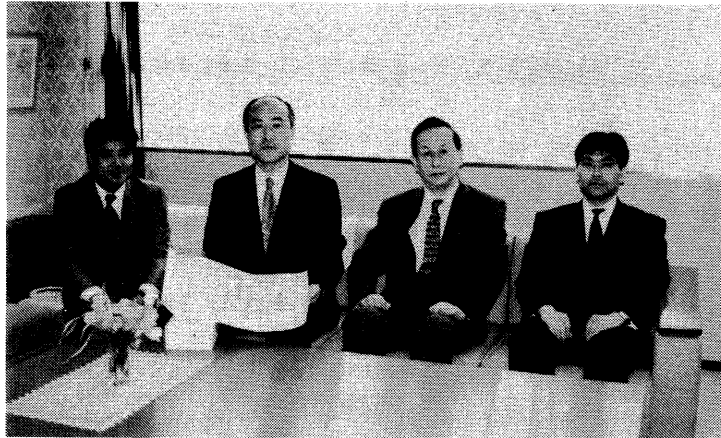
所属・職名	氏 名	渡航先国	渡 航 目 的	期 間	渡航種目
ジェンダー研究センター・教授	原 ひろ子	ネパール王国	国際協力事業団ネパール村落振興、森林保全計画における短期専門家として派遣	8. 3.27～ 8. 3.30	外国出張
ジェンダー研究センター・教授	原 ひろ子	大 韓 民 国	梨花大学校における第2回国際シンポジウム「アジアの家父長制度に対するフェミニスト意識の高揚」に出席	8. 5. 9～ 8. 5.12	海外研修
附属中学校・教諭	坂下英喜	アメリカ合衆国	補習授業校のカリキュラム開発	8. 5.22～ 8. 5.27	外国出張

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
文教育学部 ・教授	徳丸吉彦	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学ロサンゼルス校での講演と資料収集	8. 5.29～ 8. 6. 3	海外研修
生活科学部 ・教授	田中辰明	大韓民国	大韓民国延世大学校生活科学大学の生活科学研究所で1996年5月31日開催の国際学術シンポジウムでの招聘講演	8. 5.30～ 8. 6. 1	海外研修
理学部・助手	梅原利宏	アメリカ合衆国	「IEEF MTT-S INTERNATIONAL MICROWAVE SYMPOSIUM」における「Electromagnetic Wave Interaction with Water and Moist Substances」Workshopでの発表・参加のため	8. 6.16～ 8. 6.22	外国出張
理学部・教授	松浦悦子	アメリカ合衆国	ゴードン会議に出席、研究発表	8. 6.16～ 8. 6.22	海外研修
理学部・助教授	松崎克彦	スペイン	Summer School “Conformal Geometry and Geometric Function Theory” に参加	8. 6.22～ 8. 7. 4	外国出張
生活科学部 ・助教授	田辺新一	アメリカ合衆国	米国暖房冷凍空調学会委員会出席及び研究打合せ	8. 6.22～ 8. 6.30	外国出張
理学部・教授	福田豊	オーストリア共和国	ウィーン工科大学での研究打合せ	8. 6.25～ 8. 6.30	海外研修
文教育学部 ・教授	内藤俊史	大韓民国	韓国心理学会50周年記念大会における発表	8. 6.26～ 8. 6.30	海外研修
理学部・助教授	小野薫	スイス連邦 連合王国	チューリッヒ工科大学訪問、チューリッヒ工科大学のセミナーハウスでの研究集会出席、イギリス・ウォーリック大学での研究集会出席	8. 6.28～ 8. 7.31	外国出張
理学部・助教授	鷹野景子	オランダ王国	IAUシンポジウム第178回「天体物理学における分子」に出席、研究発表	8. 6.29～ 8. 7. 7	外国出張
理学部・教授	平野恒夫	オランダ王国 ドイツ連邦共和国 スイス連邦 イタリア共和国	国際天文学会シンポジウム187「天体物理学における分子」に出席、研究発表、ゲッチンゲン大学における量子化学研究、チューリッヒ工科大学、ミラノ大学における研究討論	8. 6.29～ 8. 8.24	外国出張

○永年勤続者表彰について

事務局長 砂本 宏一

平成8年度退職時の文部省永年勤続者表彰表彰状伝達式が平成8年6月27日（木）に行われ、表彰状並びに記念品が授与された。



○名誉教授の称号授与について

平成8年4月24日（水）に下記の方に本学名誉教授の称号が授与された。

(氏 名)	(元 官 職)
尾 田 幸 雄	文教育学部教授
野 島 秀 勝	〃
前 田 侯 子	理学部教授
能 村 堆 子	〃
遠 山 益	〃
中 島 利 誠	生活科学部教授
湯 沢 雍 彦	〃
本 田 和 子	〃



尾 田 幸 雄 名誉教授略歴等

生年月日 昭和5年12月3日生

略 歴 昭和31年3月 東京大学大学院修士課程修了

昭和36年4月 同 文学部助手

昭和38年6月 お茶の水女子大学文教育学部講師

昭和41年4月 同 文教育学部助教授

昭和51年7月 お茶の水女子大学文教育学部教授
 昭和55年1月 同 学生部長
 昭和58年10月 同 評議員
 昭和59年4月 同 附属小学校長
 平成2年4月 同 附属学校部長
 平成8年3月 同 停年退職
 平成8年4月 同 名誉教授

研究実績 カント哲学を中心とするドイツ観念論の研究によって、倫理学の発展に貢献し、また、近年の関心は、倫理学の方法論としての道德教育にも精力的に向けられ、その温厚篤実な人柄に裏付けられた研究・指導は、全国の道德教育の現場にある人々に強い影響を与えた。

著書等 『倫理学』学陽書房 昭和48年
 共著『ギリシア思想とヘブライ思想』以文社、昭和53年
 共編著『道德教育への期待と構想』文溪堂、平成元年
 編著『自分自身に関する内容の指導』文溪堂、平成元年
 編著『実践力を育てる道德の指導』教育開発情報センター、平成元年
 共著『新しい道德教育の実践』学陽書房、平成3年
 編著『国際理解教育と教育実践 第13巻』エムティ出版、平成6年
 「真理と道德—カント哲学に即して—」哲学雑誌、737号、昭和33年
 「ヘーゲル初期におけるロゴス解釈の変遷」倫理学年報、10号、昭和36年
 「カントにおける靈魂不滅の問題」お茶の水女子大学人文科学研究紀要、18巻、昭和40年
 「カントの世界理念と社会哲学」『社会倫理の探究』所収、勁草書房、昭和42年
 「カントにおける神の存在証明」お茶の水女子大学人文科学研究紀要、25巻第1分冊、昭和47年
 「道德の形而上学的基礎論」(翻訳)『カント全集 第11巻 人倫の形而上学』所収、昭和44年
 その他論文、著書筆多数

野島秀勝 名誉教授略歴等

生年月日 昭和5年8月1日生

略歴 昭和28年3月 東京外国語大学英米学科卒業
 昭和33年4月 お茶の水女子大学文教育学部講師
 昭和38年4月 同 助教授
 昭和51年7月 同 教授
 昭和60年10月 同 評議員
 平成8年3月 同 停年退職
 平成8年4月 同 名誉教授

研究実績 専門はイギリス文学であるが、アメリカ文学、日本文学の領域においても独創的な業績をあげた。また、文芸評論家として35年の長きにわたって活躍した。

論文等 『美神と宿命—V. ウルフ論』(1962)南雲堂
 『エグザイルの文学—ジョイス、エリオット、ロレンスの場合』(1963)南雲堂
 『ロマンス・悲劇・道化の死』(1971)南雲堂
 『「日本回帰」のドン・キホーテたち』(1971)冬樹社
 『「誠実」の逆説』(1973)冬樹社
 『終末からの序章』(1980)北宋社
 『自然と自我の原風景』上・下(1980~81)南雲堂
 『迷宮の女たち』(1981)TBSブリタニカ[亀井勝一郎賞受賞]
 『実存の西部—ノーマン・メイラー』(1982)研究社
 『女の伝記』(1987)研究社

『孤独の遠近法』(1987) 南雲堂
その他、翻訳、書評、講演など多数

前田 侯子 名誉教授略歴等

生年月日 昭和5年7月7日生

略歴 昭和28年3月 お茶の水女子大学理学部化学科卒業
昭和28年6月 同 理学部助手
昭和28年7月 通商産業省工業技術院東京工業試験所助手
昭和30年2月 同 通商産業技官
昭和32年5月 お茶の水女子大学理学部助手
昭和43年4月 同 理学部講師
昭和53年4月 同 理学部助教授
昭和59年8月 同 理学部教授
平成4年4月 同 附属高等学校長
平成8年3月 同 停年退職
平成8年4月 同 名誉教授

研究実績 有機光化学、とりわけ化学発光、クロモトロピズム、分子性結晶中での光化学反応の分野において顕著な成果を挙げ、国際的に高く評価されております。

論文等 The Chemiluminescence, Fluorescence and Phosphorescence and Absorption Spectra of 2,4,5-Triphenylimidazole, K. Maeda, H. Ojima and T. Hayashi, *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, **38**, 76-80 (1965)

Photochemical Reaction of 2,4,4,6-Tetrasubstituted 1,4-Dihydropyridines in Deaerated Media : Photocolouration and Photorearrangement accompanying Dehydrogenation, J. Shibuya, M. Nabeshima (nee Nakamura), H. Nagano and K. Maeda, *J. Chem. Soc., Perkin Trans. 2*, 1607-1612 (1988)

Photochemical Reaction of 2,4,4,6-Tetraaryl-4H-pyrans and 4H-thiopyrans with Colour Change by a 1,5-Electrocyclic Reaction. X-Ray Molecular Structure of 4-Methyl-2,3,6-triphenyl-2H-thiopyran, Y. Mori and K. Maeda, *J. Chem. Soc., Perkin Trans. 2*, 2061-2066 (1991)

Novel Adsorption and Desorption Chemiluminescence of 10,10'-Disubstituted 9,9'-(10H,10'H)-Biacridinylidenes in Alumina Slurries, S. Yamada and K. Maeda, *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, **66**, 2659-2664 (1993)

Mechanism of the Chemiluminescence of Biisoquinolinium Salts, K. Maeda, Y. Matsuyama, K. Isozaki, S. Yamada and Y. Mori, *J. Chem. Soc., Perkin Trans. 2*, 121-126 (1996)

能村 堆子 名誉教授略歴等

生年月日 昭和5年8月8日生

略歴 昭和33年3月 東京都立大学大学院理学研究科修士課程修了
昭和36年11月 名古屋大学理学部附属分子生物学研究施設教務員
昭和41年11月 同 助手
昭和51年4月 お茶の水女子大学理学部助教授
昭和56年3月 同 理学部教授
昭和56年4月 同 理学部附属臨海実験所長

平成3年10月 お茶の水女子大学評議員
平成8年3月 同 停年退職
平成8年4月 同 名誉教授

研究実績 「細胞運動の仕組みと制御」を一貫した研究テーマとして、非筋細胞でのアクチンの発見、暗視野顕微鏡を用いた微小管の形態解析、電子顕微鏡によるダイニンの分子構造の研究、ATP・ADPによる繊毛・鞭毛軸糸の滑り運動修飾機構解明などにおいて、国際的にも高く評価されている数々の業績を残されました。

論文等 T. MIKI-NOUMURA An actin-like protein of the sea urchin eggs I. Its interaction
& F. OOSAWA of the myosin from rabbit striated muscle
Exptl. Cell Res. **56** : 224-232 (1969)

T. MIKI-NOUMURA Conformational change in the outer doublet microtubules from sea
& R. KAMIYA urchin flagella
J. Cell Biol. **81** : 355-360 (1979)

Y. TAKASAKI Shape of the ciliary doublet microtubules in solution
T. MIKI-NOUMURA J. Mol. Biol. **158** : 317-324 (1982)

Y. NIINO & ATPase sites in two-headed fragment of *Tetrahymena* 22S ciliary
T. MIKI-NOUMURA dynein
Biochim. Biophys. Acta (Bioenergetics) **1100** : 146-154 (1992)

S. OHBA, Stabilization of microtubules by dynein-binding *in vitro* --
K. KAMATA & stability of microtubule-dynein complex ---
T. MIKI-NOUMURA Biochim. Biophys. Acta **1158** : 323-332 (1992)

遠山 益 名誉教授略歴等

生年月日 昭和5年7月25日生

略歴 昭和37年3月 東京教育大学大学院理学研究科植物学専攻修了
昭和38年12月 東京教育大学理学部教務員
昭和49年7月 お茶の水女子大学理学部助教授
昭和60年1月 同 理学部教授
平成2年4月 同 附属小学校長
平成8年3月 同 停年退職
平成8年4月 同 名誉教授

研究実績 電子顕微鏡を用いた植物細胞の微細構造の観察を基盤に、植物の老化、植物ホルモンの作用機
作、植物の耐寒性、そして酸性雨被害に関する植物生理学的な研究に専心され、高く評価される
多くの業績を残されました。

論文等 Naoko Nakajima and Susumu Toyama
Effects of brassinosteroid on cell division and colony formation of chinese cabbage
mesophyll protoplasts. Jpn. Crop Sci. **65** (1) : 114-118 (1996)

Midori Yoshida, Isamu Nouchi and Susumu Toyama
Studies on the role of active oxygen in ozone injury to plant cells. 1.
Generation of active oxygen in rice protoplasts exposed in ozone. Plant Sci.
95 : 197-205 (1994)

Ayako Shiraishi and Midori Yoshida and Susumu Toyama
New methods for cryopreservation, thawing and reproduction of cultured cells of
gramineous plants. Jpn. J. Crop Sci. **61** (EI 2) : 227-229 (1992)

Susumu Toyama, Hisaaki Katou and Toyohiko Imai

Studies on cultur of cells and tissues of crop plants. III. Isolation of rice mesophyll protoplasts with a new cell wall lytic enzyme "funcelase". Jpn. J. Crop Sci. 58, 635, (1989).

Susumu Toyama and Sachiko Hibi

Studies on ultrastructure and function of photosynthetic apparatus in rice cells. III. Photooxidation of damages of chloroplasts in rice seedlings. Jpn. J. Crop Sci. 57, 225, (1998).

中 島 利 誠 名誉教授略歴等

生年月日 昭和5年4月23日生

略 歴 昭和30年3月 東京大学工学部応用化学科卒業

昭和37年4月 同 助手

昭和44年4月 お茶の水女子大学助教授

昭和54年2月 同 教授

昭和59年1月 同 学生部長

昭和62年4月 同 家政学部長

平成4年10月 同 教授(生活科学部)

平成8年3月 同 停年退職

平成8年4月 同 名誉教授

研究実績 専門は、機能性高分子の合成、それらの吸着挙動および吸湿・吸水挙動、ならびに高分子の表面物性の解析から、人体-衣服-環境系での熱・水分移動現象と快適感、発汗挙動との関連などの感覚工学的研究にまで幅広い分野におよび、その独自性を高く評価されている。

論文等 Polydimethylsiloxane Benzimidazole Polymer

J. Polymer Sci., A-1, Vol.7, 1295-1298 (1969)

Structure and Sorption Properties of the Polyion Complex between Poly (Acrylic Acid) and Poly (4-Vinylpyridine)

J. Polym. Sci. (Poly. Chem. Ed.), Vol.21, 2987-2995 (1983)

Sorption Behavior of Water Vapor into Polyelectrolyte Complex of Poly (acrylic acid) / Poly (4-vinylpyridine)

J. Appl. Polym. Sci., Vol.37, 2275-2281 (1989)

Influence of Detergent Builders on Surface Properties of Sodium Dodecyl Sulfate Solutions Under Dynamic and Static Conditions

J. Am. Oil Chem. Soc., Vol.67 (No. 10), 698-704 (1990)

Water-Sorption Properties of Poly (ϵ -Lysine) : Carboxymethyl Cellulose (CMC) Dietary Complex Films

J. Appl. Polym. Sci., Vol.54, 105-112 (1994)

湯 沢 雍 彦 名誉教授略歴等

生年月日 昭和5年8月25日生

略 歴 昭和29年3月 東京都立大学人文学部社会学専攻卒業

昭和30年4月 東京家庭裁判所調査官補

昭和32年6月 東京家庭裁判所調査官

昭和42年2月 お茶の水女子大学家政学部助教授

昭和50年4月 お茶の水女子大学家政学部教授
 昭和56年10月 同 評議員
 平成元年4月 同 附属高等学校長
 平成4年10月 同 教授（生活科学部）
 平成8年3月 同 停年退職
 平成8年4月 同 名誉教授

研究業績 近現代の家族動向の実証的研究を専門とし、特に現代と近代における家族動向と家族認識の差異に関する多くの実証研究を行っている。一連の研究により「日本家政学会賞」を、また近現代家族制度史の分析では、「毎日出版文化賞・特別賞」を受賞され、その研究の独自性が高く評価されている。

論文等 『家庭事件の法社会学』（単著）岩波書店、1968年
 『家族関係学』（単著）光生館、1969年
 『日本婦人問題資料集成・第5巻・家族制度』（単著）ドメス出版、1976年
 『新しい家族学』（単著）光生館、1987年
 「母子家庭と母子寮の問題性」ジュリスト増刊総合特集『現代の家族』1977年
 「実親との関係・夫婦との関係」比較家族史学会監修『縁組と女性』1994年
 その他論文、著書等多数

本田和子 名誉教授略歴等

生年月日 昭和6年1月15日生
 略歴 昭和30年3月 お茶の水女子大学家政学専攻科修了
 昭和30年4月 尚綱女学院短期大学助手
 昭和32年9月 同 講師
 昭和38年4月 同 助教授
 昭和41年3月 同 退職
 昭和41年4月 十文字学園短期大学助教授
 昭和45年3月 同 退職
 昭和45年4月 お茶の水女子大学家政学部助教授
 昭和58年10月 同 家政学部教授
 平成元年4月 同 家政学部長
 平成4年10月 同 教授（生活科学部）
 平成7年3月 同 停年退職
 平成8年4月 同 名誉教授

研究業績 専門は児童文化論。保育学や歴史学など、その研究領域は広く、その業績は学界のみならず各方面から高く評価されている。最近は独自の子ども論、少女論で注目を浴びている。

主要著書 異文化としての子ども 1982 紀伊国屋書店
 子どもの領野から 1983 人文書院
 少女浮遊 1986 青土社
 子別れのフォークロア 1988 頸草書房
 フィクションとしての子ども 1989 新曜社
 女学生の系譜 1990 青土社
 江戸から東京へ 1991 朝日新聞社
 その他論文、著書多数

日 誌

◇諸会議

- 4月30日(火) 臨時教授会
 5月1日(水) 大学院問題検討小委員会
 8日(水) 文教育学部大学院学部入試方法検討委員会
 拡大部局長会議
 将来構想検討委員会
 国際交流委員会
 カリキュラム委員会
 10日(金) 留学生専門委員会
 13日(月) 理学部入学者選抜方法検討委員会
 14日(火) ジェンダー研究センター運営委員会
 文教育学部概算関係小委員会
 部局長会議
 主任会議
 15日(水) 教授会
 16日(木) 学生委員会
 21日(火) 拡大部局長会議・部局長会議
 国際交流基金理事会
 大学院問題検討特別委員会
 22日(水) 評議会
 研究科会議
 24日(金) 事務連絡会議
 27日(月) 総合コース小委員会
 28日(火) 公開講座委員会
 29日(水) 施設計画委員会
 入学者選抜方法研究委員会
 31日(金) 東京地区国公立大学厚生補導研修会運営委員会
 文教育学部大学院学部入試方法検討委員会
 6月4日(火) 部局長会議
 予算委員会
 主任会議
 5日(水) 教授会
 6日(木) 附属図書館運営委員会
 7日(金) 拡大部局長会議
 11日(火) 臨時主任会議(文教)
 12日(水) 教務関係事項検討委員会
 将来構想検討委員会
 臨時主任会議(理)
 17日(月) 部局長会議

- 18日(火) 附属学校委員会
 20日(木) 評議会
 臨時主任会議(生活)
 21日(金) 国際交流留学生専門委員会
 24日(月) 事務連絡会議
 26日(水) 理学部PR委員会
 研究科会議
 28日(金) 学生委員会

◇行事等

- 5月1日(水) 生和会役員会
 7日(火) 技術課管内施設整備事務連絡会議
 (於・東京農工大学)
 8日(水) 六大学等事務系初任職員研修(～10日、於・国立オリンピック記念青少年総合センター)
 国立七大学理学部事務長会議(於・岡山大学)
 9日(木) 国立七大学理学部部長会議(～10日、於・岡山大学)
 II種用パンフレット作成企画編集委員会(於・東大庶務部)
 教育実習説明会
 10日(金) 六大学等事務系初任職員研修(於・オリセン)
 13日(月) 事務職員特別研修
 14日(火) 関東地区接遇研修(～16日、於・人事院関東事務局)
 16日(木) 関東甲信越地区国立大学入学者選抜研究連絡協議会(於・上越教育大)
 国立大学事務局長会議(於・オリセン)
 20日(月) 学生の定期健康診断(～23日、於・保健管理センター)
 事務職員特別研修
 ジェンダー研究センター合評会
 名誉教授称号授与式
 名誉教授懇談会
 21日(火) 大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会(於・杉野講堂)
 健康管理者研修会(於・東京芸術劇場)

22日(水) 文部省共済組合主管課長会議(於・南青山会館)

23日(木) 国立学校等経理部課長会議(～24日、於・医科歯科大)

27日(月) 献血(～28日)
国有財産管理に関する打合せ(於・東村山市役所)
財) 大学セミナーハウス理事会(於・青学会館)
事務職員特別研修

28日(火) 国立大学附属図書館事務部課長会議(於・医科歯科大)

30日(木) 国立大学施設担当部課長会議(～31日、於・医科歯科大)

6月1日(土) 国際学生宿舎防火訓練

3日(月) 事務職員特別研修

4日(火) 全国国立大学入学者選抜研究連絡協議会(於・北海道大学)
国立大学等学生部次課長会議(於・医科歯科大)

6日(木) 国立学校及び施設等機関等庶務部課長会議(～7日、於・医科歯科大)

7日(金) 国立大学国際交流担当課長等会議(於・医科歯科大)

10日(月) 事務職員特別研修

13日(木) 国立大学一般教育担当部局協議会総会(於・山梨大学)
平成8年度争訟問題研究会(於・中央合同庁舎)
パソコン取扱説明会

14日(金) 教育職員免許状の大学一括申請事務説明会(於・都民ホール)

17日(月) 事務職員特別研修

18日(火) 国立大学協会総会(於・学士会館)

19日(水) 国立大学協会総会(於・学士会館)
国立大学長会議(於・学士会館)

20日(木) 国立大学入試担当課長連絡協議会(～21日、於・琉球大学)

21日(金) 国立大学協会事務連絡会議(於・学士会館)

24日(月) 事務職員特別研修

25日(火) 人事院係長研修会(～7月4日、於・大手町合同庁舎)
東京地区国公立大学厚生補導職員研修会打合せ(於・婦人教育会館)

26日(水) 国立大学・国立高等専門学校リフレッシュ教育担当課長会議(於・医科歯科大)
外国人留学生懇談会

27日(木) 退職時永年勤続者表彰式

28日(金) 離任式